

令和4年度

さまざまな
「宝」が輝くまち 笠松

(自然・文化・歴史・・・)



はじめに

かつての笠松は、木曾川流域最大の舟運の中継地「笠松湊」を中心に、岐阜と名古屋を結ぶ交通の要衝として、産業・文化の重要な地でした。

江戸時代には「美濃郡代笠松陣屋」が置かれ、この地方の行政の中心地として栄えました。

明治になると、この陣屋は「笠松県庁」さらに「岐阜県庁」として活用され、岐阜県政の中心地でした。


明治 22 年 7 月の町制施行により「笠松町」が誕生しました。

昭和 25 年に松枝村、昭和 30 年に下羽栗村と合併し、現在の姿になりました。

清流木曾川に抱かれた笠松町が誕生して 120 年を迎えた節目の年である平成 21 年度から、笠松町の魅力を再発見し、笠松町を愛する心を深めていただくことを目的に「笠松力検定」を実施しています。

この『さまざまな「宝」が輝くまち 笠松』は、笠松町の自然・文化・歴史・産業・観光・行政などに触れ、笠松町への興味や関心を高めていただくためのガイドのほか、「笠松力検定」のテキストとして活用できるものとなりました。

「笠松力検定」の実施にあたり、このテキストが受検される皆様に少しでもお役に立てば幸いです。

笠松力検定委員会 

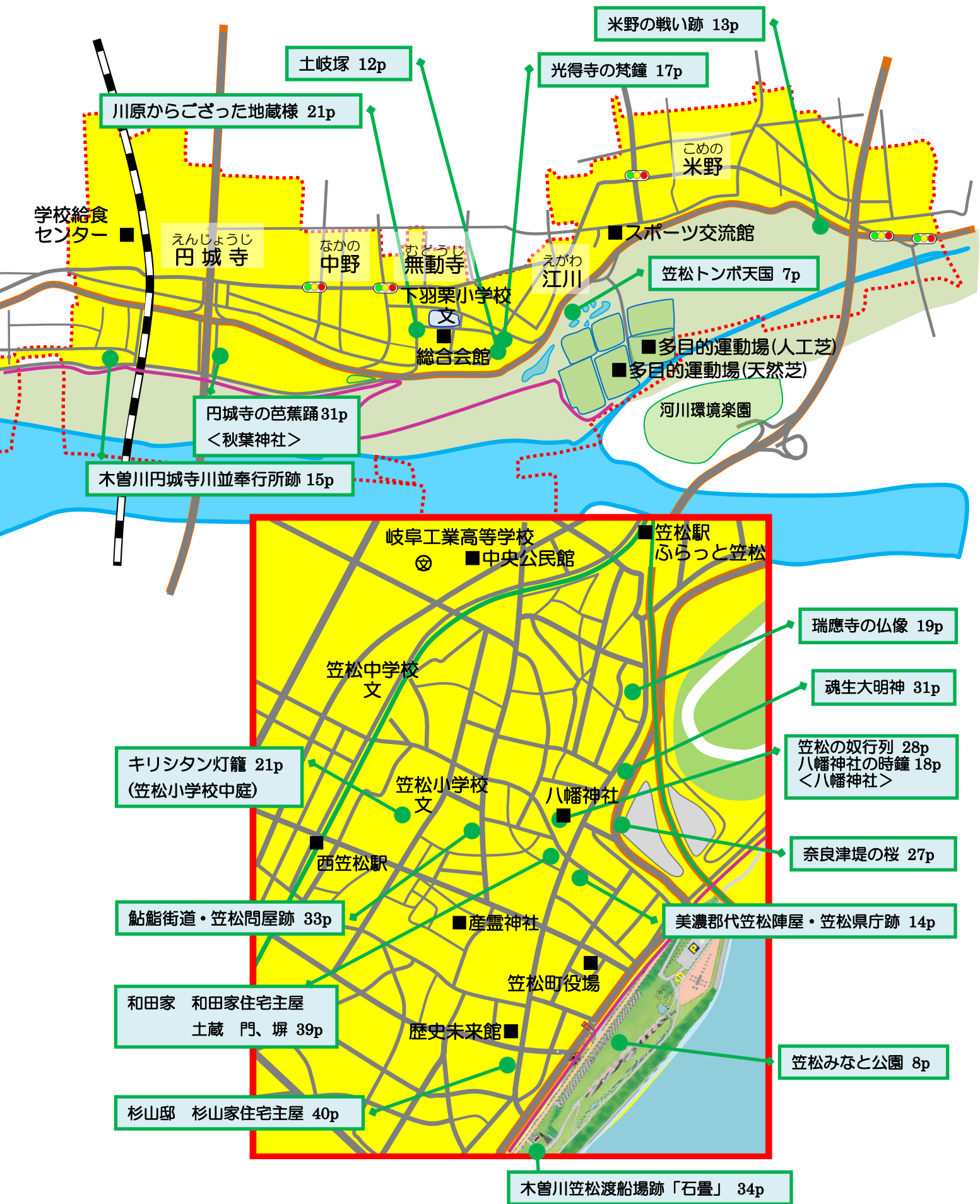
もくじ

1.笠松町の位置・人口	1
2.笠松の地勢	3
3.笠松町の自然	5
4.笠松町のあゆみ	9
5.笠松町の史跡、文化財	11
6.笠松町の年中行事	27
7.笠松町の交通と産業	33
8.笠松町の防災・防犯	41
9.笠松町のまちづくり	45
10.笠松町の教育	53
11.笠松競馬	61
巻末資料	
町章など	63
笠松町史年表	66
令和3年度笠松力検定 Beginner 問題	73
令和3年度笠松力検定 Beginner 解答	80
索引	81

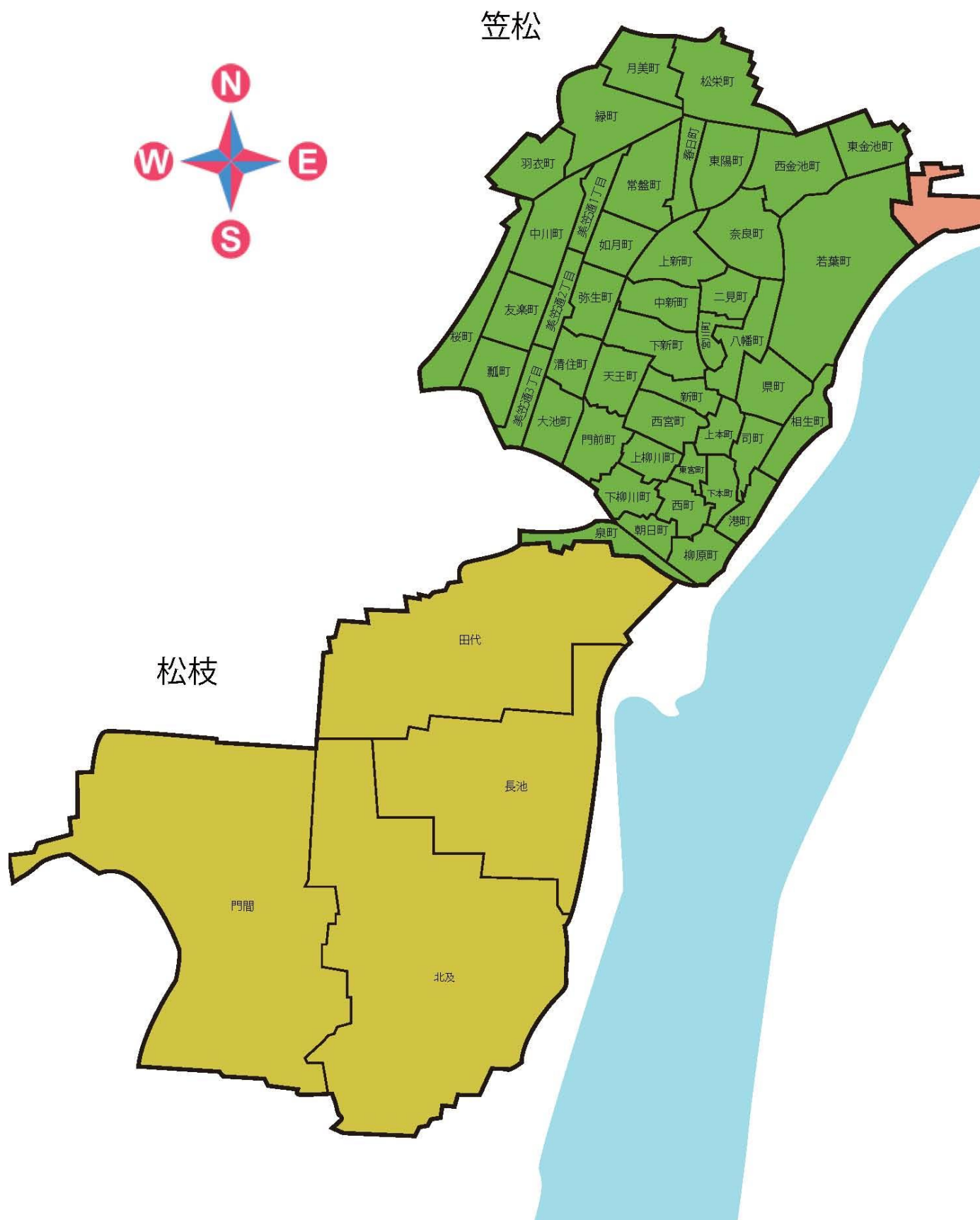
この『さまざまな「宝」が輝くまち 笠松』は、笠松町の沿革や文化・風土などの分野、年代を重視して、幅広く活用いただけるよう編集しました。

笠松町の史跡・文化財など

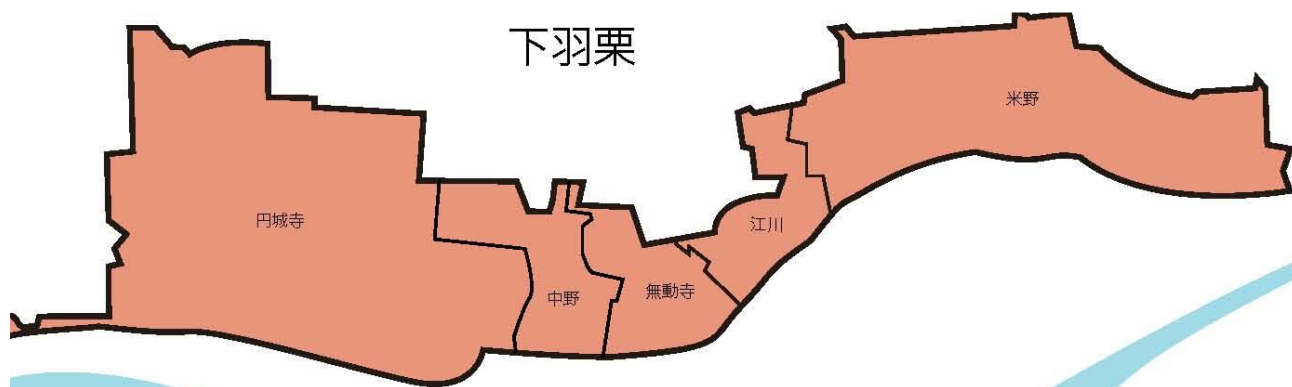




笠松町詳細地図

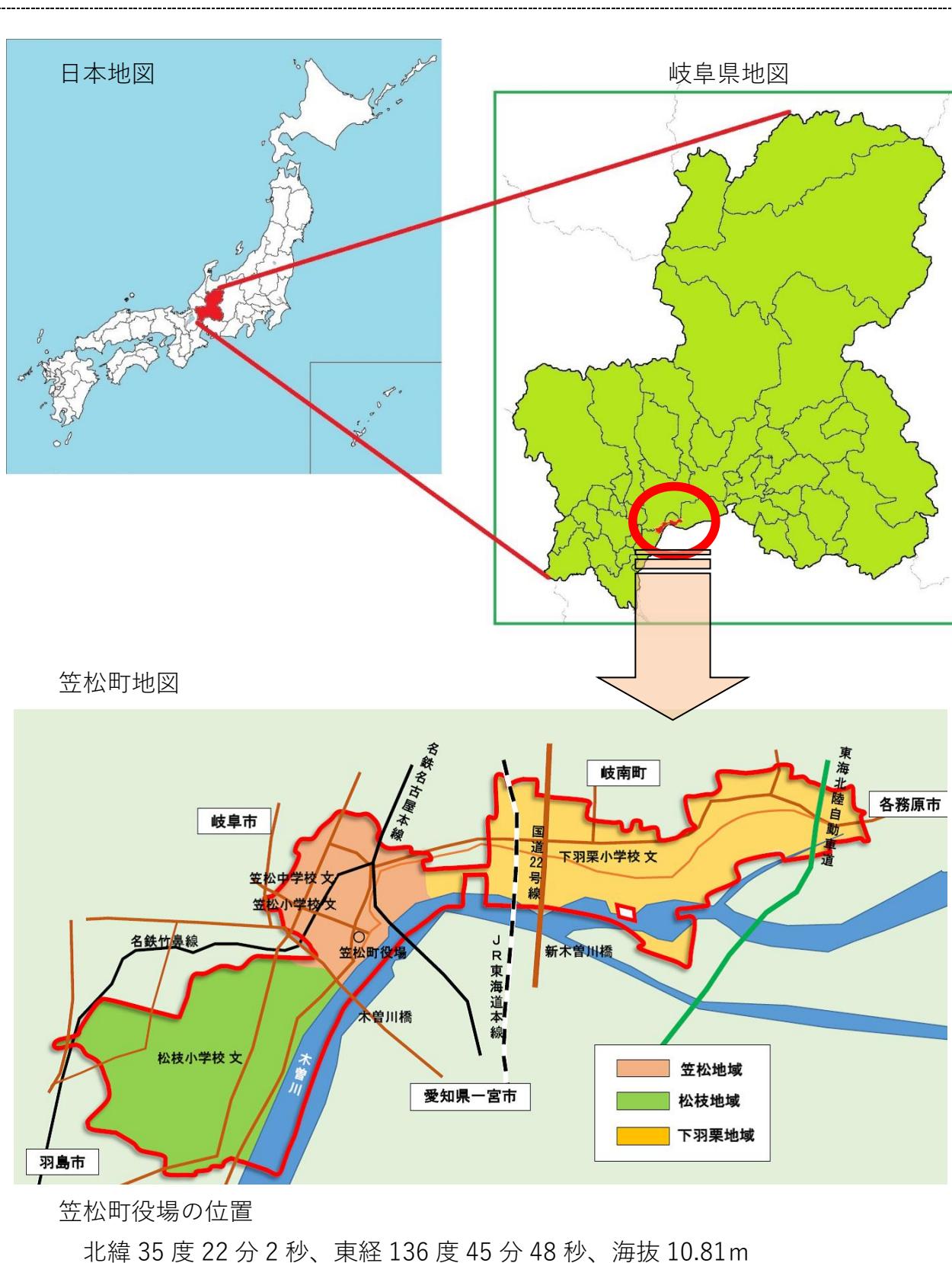


下羽栗



1. 笠松町の位置・人口

岐阜県羽島郡笠松町は、岐阜県の南西部に位置し、岐阜市、各務原市、羽島市、岐南町に隣接し、木曾川を隔てて愛知県一宮市と接しています。



笠松町は、木曾川右岸に沿って带状に広がる肥沃な土地で、西に養老山脈と伊吹山、北には金華山、さらに御嶽山などが眺望できる濃尾平野の北東部に位置しています。北部の境川、南部の木曾川に挟まれた旧輪中地帯の一部でもあります。

笠松町の面積は 10.30km²で、岐阜県 42 市町村のうち小さい方から数えて、本巣郡北方町、岐南町に次いで 3 番目ですが、おおよそ 3 分の 1 の面積を木曾川が占めています。

笠松町内には、通勤通学などに便利な名古屋鉄道(名鉄)の駅が 2 つあり、岐阜市や愛知県名古屋市、また羽島市にある J R 東海道新幹線の岐阜羽島駅につながる交通の要衝となっています。また、笠松町を取り囲むように道路網も整備されており、名神高速道路や東海北陸自動車道のインターチェンジが 30 分圏内にあります。

笠松町流域の木曾川には、東海北陸自動車道、国道、県道、J R、名鉄の橋が架かり、岐阜市と名古屋市を結ぶ最短ルートとなっています。

笠松町周辺の地図



令和 4 年(2022)1 月 1 日現在の人口は 21,985 人(男 10,607 人、女 11,378 人)で、世帯数は 9,189 世帯です。

1 km²当たりの人口密度は、2,134.5 人で、県内でも有数の人口密集地となっています。

2.笠松町の地勢

濃尾平野の北東部に位置する笠松町は、木曾川が運んだ土砂が堆積して形成された低湿地です。

養老 - 桑名 - 四日市断層帯の活動に伴う養老山脈の隆起と沈降によって「東高西低」の濃尾平野が形成され、濃尾平野を流れる木曾三川（木曾川・長良川・揖斐川）はこの傾斜によって西に流れを変えた結果、平野の西側ほど厚い沖積層が確認できます。このように土砂が堆積してできた平野は沖積平野と呼ばれ、ここ濃尾平野はその代表例です。



町民憩いの笠松みなと公園

マガキの化石

昭和10年(1935)、国道22号(現在の県道14号岐阜稲沢線)の木曾川橋の橋脚建設工事中に、田代藤掛地内の川底約15mの深さからマガキ(別称ナガガキ)の化石が採取されました。採取された場所は細かい砂に粘土の混じった地層で、今から6,000年以前のもものと推測されます。

出土した化石や地層の深さから笠松町は、かつて伊勢湾に接続する大きな内海であったことが推定されます。



マガキの化石(町歴史未来館展示)

この木曾川は、長野県木曾郡木祖村の鉢盛山を源とし、岐阜県・愛知県・三重県を通り伊勢湾に注ぐ一級河川です。

昔、木曾川は広野川、鵜沼川、尾張川、岐蘇川などと呼ばれていました。以前の木曾川は、現在の各務原市前渡より北西へ流れ、各務原市上中屋、岐阜市芋島を経て岐阜市と岐南町境界を流れる境川に沿って大きく蛇行し、笠松町の北西、岐阜市柳津町の北西を流れて、長良川に注いでいましたが、天正14年(1586)6月24日、未曾有の大洪水によって河道が変わり、現在の流路となりました。



木曾川の流れは、下羽栗地域で 3 つの流れが一か所に合流し、笠松地域で大きく屈曲し、南に向けて流れています。

その昔、笠松町には「三尺いざれば水が変わる」という言葉がありました。これは、井戸を掘る時に三尺(約 1m)移動するだけで、赤ソブ水(鉄分を含んだ赤い水)の井戸が、清水(きれいな水)の出る井戸になることを表しています。毎日の飲料水にするには、深井戸を掘る必要がありました。そのため、浅井戸の家では、近所の家から「もらい水」をするか、井戸水をろ過してきれいな水を作る方法をとっていました。

現在の笠松町の水道水は、4 か所(月美町、松栄町、田代、中野)の水源地から各家庭に供給されています。

その水源地では、深さ約 120m から 160m の井戸を掘り、良質な地下水を汲み上げています。



主要地方道(美笠通)沿いにある第一水源地

3.笠松町の自然

笠松町は、木曾川が運んだ土砂が堆積してできた肥沃な土地で、農業が盛んな地域でした。同時に、木曾川の洪水に苦しめられた地域でもあります。

天正^{てんしょう}14年(1586)の大洪水の後、木曾川の左岸、尾張側^{おわり}に「御圍堤」^{おかくいづみ}が築られました。現在の愛知県犬山市から弥富市^{いぬやま やとみ}に至る全長12里(47km)の大堤防でした。

この御圍堤の築堤で、尾張の国は水害の難を逃れていましたが、美濃の国の被害は大きくなりました。それは、「美濃の堤は御圍堤より三尺低かるべし」との鉄則があったからです。そのため、美濃側は弱小な築堤しか許されず、度重なる大洪水に苦しめられてきました。しかし、美濃側の人々は、木曾川の治水には様々な工夫^{さるお}をしてきました。その一つに、「猿尾」があります。



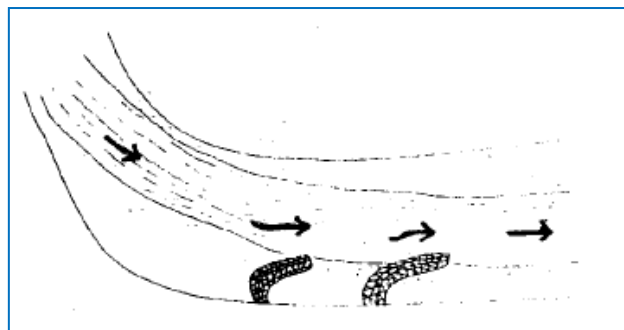
道路より高く積み上げられた石垣がある門間地内

堤防の決壊や洪水を防ぎ、川の流れの勢いを弱めるため、川の中に大きな石を組み、猿が尾を延ばしたような「猿尾」を築きました。

堤防を守る猿尾^{さるお}

川岸から大きな石などを積み上げ川の中に突き出した猿の尾のような長い形をした石積^{いしづみ}があります。これが「猿尾」です。

猿尾は川の水の流れを弱くするため、岸から本流に突き出した石積で、堤防を守り人々の生活を洪水から防ぐ治水工法の一つです。



猿の尾のように突き出した細長い部分が「猿尾」

笠松は、度重なる木曾川の洪水により、堤^{つつみ}が切れて人々は大変苦しみました。

岡田将監善政^{おかだしょうげんよしまさ}は、堤防の修理のため仮陣屋^{かりじんや}を笠松町に設け、治水工事を指揮しました。長池の堤外には、岡田将監の名が残る「将監猿尾」^{しょうげん}の一部が残っています。

この他にも「手斧猿尾」^{ちやうな}(別名「亀姫猿尾」^{かめひめ})、「横手堤猿尾」^{よこてつつみ}などの史跡^{しせき}があります。

また、水害から田畑や屋敷、人々の生活を守るため、集落の周囲に堤防を築きました。これを「輪中」^{わじゅう}と言います。境川と木曾川に挟まれた松枝地域には「松枝輪中」^{まつえだわじゅう}がありました。洪水で田畑や屋敷が水に浸っても生活ができるように、石垣を高く積み上げその上に「水屋」^{みずや}と呼ばれる家を建てました。

低湿地の洪水地帯であった笠松は、^{かん}干ばつには弱い地域でした。1 滴の雨も降らない時には、様々な^{あまご}雨乞いが行われました。かつては、^{えんじょうじ}円城寺の「^{ぼしやうおどり}芭蕉踊」(P31 参照)、北及の「夫婦踊り」、笠松の「雨乞い」、南船原(現在の^{かどま}門間)の「祈願」、^{こめの}米野の「さき踊り」など、各地で雨乞いが行われていました。当時は、木曾川の洪水対策が重要だったことから、農業用水を木曾川から取り入れることは到底考えられていませんでした。しかし、昭和の時代になると木曾川の水を取り入れる努力がされ、現在の各務原市に取水口を作り「羽島用水」ができました。この「羽島用水」は安全で豊かな農業用水を、各務原市・岐南町・笠松町・岐阜市・羽島市に安定的に供給しています。



パイプライン化された羽島用水
(工事中の時の写真)

度重なる木曾川の洪水に苦しんできた笠松の人々ですが、同時に、この木曾川から多くの恩恵を受けてきました。木曾川が運んだ^{ひよく}肥沃な^{どじょう}土壌は農業に適し、また、木曾川の船運により木曾川筋最大の川湊ができ、笠松町は交通の^{ようしょう}要衝として発展しました。



天然芝の多目的運動場

そして現在では、笠松町の面積の3分の1を占める木曾川の広大な河川敷を利用して野球・ソフトボール・サッカー・テニスなどが楽しめる運動施設が整備され、憩いの場所ともなっています。

平成 25 年(2013)、江川の河川敷に天然芝と、夜間照明設備を備えた人工芝の「多目的運動場」が完成し、プロサッカーチーム F C 岐阜の練習場にもなっています。

平成 31 年 (2019) には、笠松みなと公園と河川環境楽園を結ぶサイクリングロードが全線開通しました。^{きふく}起伏に富んだ約 5km のコースは見晴らしがよく、木曾川やトンボ池をはじめとする沿線の豊かな自然を感じることができます。また、並行する歩行者専用通路では、ランニングやウォーキング、水辺の散策なども楽しむことができ、健康増進や地域交流の場として多くの方が利用されています。



色分けされた自転車道と歩行者道



木曾川に沿ってのびるサイクリングロード

笠松トンボ天国

江川・無動寺の木曾川の河原にある4つの池は、木曾川の本流が流れた跡にできた貴重な「河跡湖」です。ここには、当時木曾川の本流が流れており、無動寺の湊でもありました。

この河跡湖には、出水時に堤防へ当たる水の勢いを弱める三角すいの形をした「聖牛」(「せいぎゅう」ともいう)と呼ばれる工作物が残されています。この「木曾川河跡湖(トンボ池)の聖牛」は、公益社団法人土木学会の平成23年度選奨土木遺産に認定されています。



河跡湖のトンボ池にある聖牛



「トンボ池」「中池」「古池」「まこも池」と呼ばれる4つの池と、観察目的で作られた人工の「造成池」「ため池」の2つの池があります。これらの池の一角を「笠松トンボ天国」と呼んでいます。

トンボ天国一帯には、クロイトトンボ、キイトトンボ、チョウトンボ、ギンヤンマをはじめ20数種類のトンボの生息が確認されています。その他、オニバス、イヌタヌキモなどの水生植物や魚類、両生類、鳥類など多くの生き物が生息しています。

これらの池には、生活雑排水の流入がなく、豊かな自然が保たれ、観察路を整備し、昆虫をはじめ多くの動物や植物の観察、バードウォッチングなどが楽しめるようになっています。

隣接する芝生広場は、グラウンド・ゴルフなどのレクリエーションの場にも利用されています。

また、トンボ天国は岐阜県一のビオトープでもあり、平成元年(1989)に環境庁(現在の環境省)の「ふるさといきものの里100選」に選定されたほか、「岐阜県の名水」「ぎふ水と緑の環境百選」「木曾三川36景」などにも選ばれています。

平成21年(2009)から国土交通省により、地元住民、学識経験者などが参加する「トンボ池等湿地環境再生検討会」が組織され、トンボ池周辺の環境の改善が進められました。

現在は、「笠松の自然と共生を考える会」が中心となって環境整備や観察会などの普及活動を行っているほか、毎年開催される「トンボ天国クリーン大作戦」では地域住民や関係団体がごみ拾いや除草作業を行い、自然環境の保全・再生に努めています。



トンボ池にヤゴの放流をする下羽栗小学校児童

笠松町の豊かな自然の象徴でもあるトンボは、様々なところで見ることができます。

トンボ天国の堤防上には、トンボのモニュメントが出迎えてくれています。

また、トンボの育つ環境を守り水質悪化を防止するために、笠松町が下水道整備を行う



トンボのモニュメント



トンボが見守るマンホール蓋

一環として、下水道のマンホール蓋^{ふた}のデザインは、一般公募により「トンボの図案」が採用されています。このマンホール蓋は、町内の約 4,000 か所に設置されています。

笠松みなと公園には、上空から見るとトンボの形になっている「みなと公園トンボ広場」があります。かつて水辺に渡船場が置かれ、陸運、水運の要衝として栄えていた笠松^{みなと}湊を、21 世紀を担う子どもたちにこれからの歴史や川文化を継承し、川湊の再生、川を軸とした人々の交流やふれあいの場の創出によって、人と川の関わりを再構築するため、『笠松湊の歴史を次世代に～人と川との関わりを再構築～』を基本テーマに、木曾川笠松築堤事業^{ちくてい}に合わせて「笠松みなと公園」が整備されました。ここには、子どもたちが遊べる遊具や水場、春に見頃を迎える桜木などが整備され、多くの人たちに利用されています。



お花見で賑わう「笠松みなと公園」



4. 笠松町のあゆみ

笠松町には、縄文時代から江戸時代に及ぶ複合遺跡「藤掛水没遺跡」があります。その出土品は弥生時代の遺物が最も多く、低湿な土地を利用して稲作を行ったと考えられます。水田耕作をするには、人々が共同で家屋や水田を水害から守りながら共同で農耕に従事したと考えられます。

藤掛水没遺跡

大正 12 年(1923)、柳川(現在の柳原町)で井戸を掘った際、弥生土器の破片が発見されました。笠松は木曾川沿いで、たびたび水害に見舞われる土地柄であったことから、当時、発見された弥生土器は上流から流れてきたものと考えられていました。

しかし、昭和 46 年(1971)、笠松中学校の生徒が木曾川の藤掛中洲から

弥生土器を発見したことをきっかけに再び弥生時代の遺跡として注目され、この遺跡は地名から「藤掛水没遺跡」と呼ばれるようになりました。

昭和 47 年(1972)と 48 年(1973)、「笠松町考古歴史を語る会」によって発掘調査が行われ、木曾川橋の下流 5 か所の調査地から石器、縄文土器(中期～晩期)、弥生土器(後期)、土師器(古墳時代前期～中期)、須恵器(古墳時代中期・後期、奈良時代)、灰釉陶器(平安時代)、山茶碗(平安時代・鎌倉時代)、古代瓦、下駄・木舟・漆器などの木器、古銭、木造仏などが出土しました。



出土した土器(町歴史未来館展示)

大化元年(645)の大化の改新以後、大和朝廷による中央集権的な律令国家体制が確立しました。その頃の笠松町は、尾張国葉栗郡に属していました。

天正 14 年(1586)の大洪水によって木曾川が今の流れに変わると、美濃国に編入され「羽栗郡」となりました。

江戸時代になると、美濃国は幕府直轄領と旗本領などに細かく分割統治されました。笠松村は幕府直轄領となり、円城寺村・栗木村が尾張領、長池村などが旗本津田領、中野村・無動寺村・江川村・米野村が旗本坪内領、船原村(現在の門間)が旗本中川領となりました。

慶安 3 年(1650)の枝広洪水の復旧工事にあつた代官岡田将監善政が、当時「笠町」と呼ばれていたこの地に臨時の役所「休憩所」を設けました。

寛文^{かんぶん}2年(1662)岡田善政の後任となった名取半左衛門長知^{なとりはんざえもんながとも}は「笠町^{かさまち}」を「笠松村^{かさまつ}」と改め、笠松に美濃国における幕府の領地支配と治水土木対策を管轄する「美濃郡代(代官)^{みのぐんだい}」の陣屋を構えました。この陣屋は、慶応^{けいおう}4年(1868)明治新政府に接收されるまで続きました。

明治政府は最初の地方行政機関として、美濃・飛騨^{ひだ}両国の旧幕領府を管轄下に置くため、慶応^{けいおう}4年(1868)に「笠松裁判所^{かさまつじんや}」を設置しました。その役所には、美濃郡代の笠松陣屋が充てられました。その年に明治政府は、地方を府・県・藩にまとめることにし、笠松裁判所を廃止し、「笠松県」を設置しました。

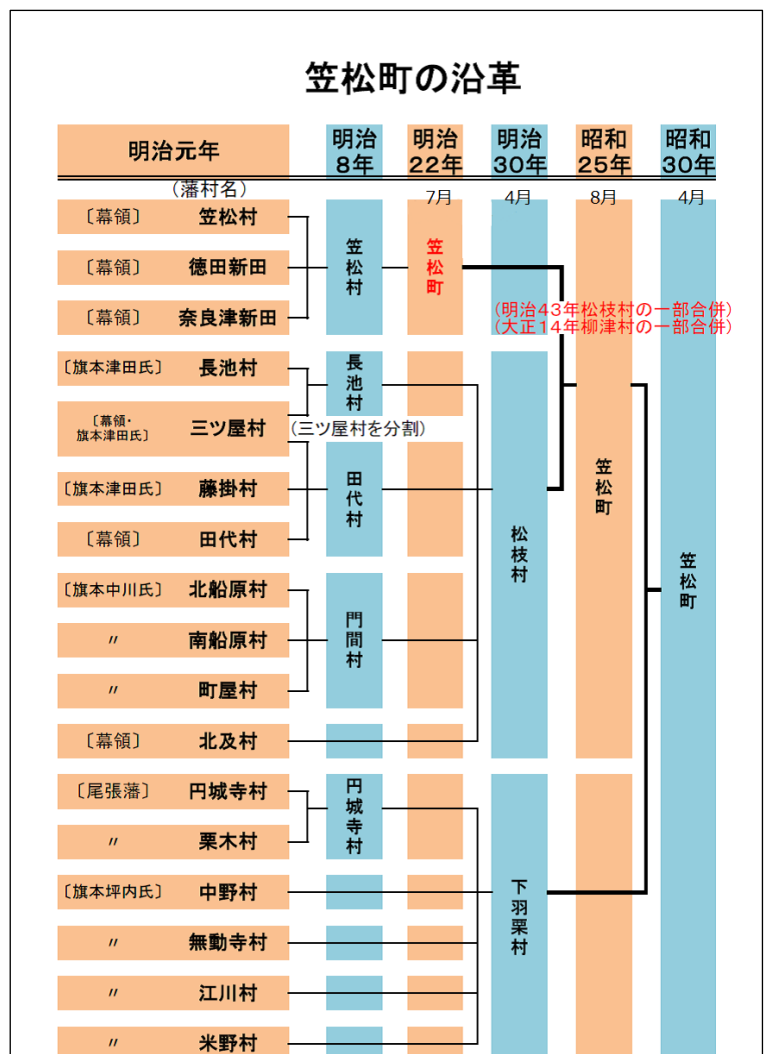
明治4年(1871)7月の廃藩置県により、美濃国には旧藩領ごとに笠松、大垣、加納、岩村、郡上、苗木、今尾、高富、野村^{のむら}の9県が置かれ、飛騨国には高山^{たかやま}県が置かれました。美濃国には、笠松、大垣など9県に加え、名古屋、犬山、岡田^{いぬやま おかだ}の3県の飛び地がありましたが、明治4年(1871)11月の府県廃合で、美濃国一円が岐阜県に統一され、高山^{ちくま}県は筑摩^{ちくま}県に編入されました。

この時の岐阜県庁は、かつての笠松陣屋が使われていましたが、職員数も増加し、規模の点で限界であったことから、明治6年(1873)3月に現在の岐阜市に移りました。

明治12年(1879)に「郡区町村編成法」が施行されると、郡は地方行政組織の一つとなり、郡役所が岐阜県下に16か所設置されました。その時、笠松村には羽栗郡^{なかしま}と中島郡^{はしま}の郡役所が置かれました。明治30年(1897)に新郡制が施行されると、羽栗・中島郡が羽島郡となり、2町18村の諸務・税務・会計の事務が取り扱われましたが、この郡役所は大正15年(1926)に廃止されました。

明治元年当時、笠松は17か村に分かれていましたが、町制施行により明治22年(1889)7月1日に笠松町が、明治30年(1897)には合併により、松枝村^{まつえだ}と下羽栗村^{しもはぐり}が誕生しています。

そして、昭和25年(1950)に松枝村と、昭和30年(1955)に下羽栗村とそれぞれ合併し、現在の笠松町の姿になりました。平成21年(2009)に「町生誕120年」という節目の年を迎えました。



5.笠松町の史跡、文化財

笠松町は、江戸時代に「美濃郡代笠松陣屋」、明治時代に「県庁」が置かれ、川湊のある商人の町として、この地方の政治・経済をはじめ文化の中心となり栄えていました。先人が築き、先人が残した歴史的遺産、また神社仏閣が多く残るのも笠松町の特徴です。

1)笠松のあけぼの

2世紀から4世紀の遺跡といわれる「藤掛水没遺跡」(P9 参照)では、縄文時代から江戸時代にかけての遺物が発見されました。これらの遺物から、縄文時代にはこの地域に人々が生活していたことが明らかになりました。

①東流廃寺塔礎石 <町指定文化財(史跡)>

昭和32年(1957)、田代・長池地内で土地改良工事が行われ、古代の布目瓦の破片が多数出土しました。

翌年には大型の川原石で造られた寺院の塔心礎が二分された状態で発見され、田代の白鬚神社に移されました。

残りの半分の塔心礎は、すでに明治時代の初めに発見されており、西宮町の大谷派笠松別院(東別院)に移設されていました。

発見された寺院跡は、地名から「東流廃寺」あるいは「蓮台(田代)寺」とも呼ばれています。

塔心礎の2つを合わせた大きさは、長辺約110cm、短辺約90~100cm、高さ約60cmです。表面には直径82~83cm、深さ2~3cmの柱座という浅い円形の凹面があり、さらにその中心には直径約32cm、深さ約8~9cmの舍利孔が見られます。この塔心礎から推察して、高さ30mほどの塔だったと見られています。塔心礎とは寺院の塔の中心柱を支える礎石のことです。

発見された瓦の文様から、白鳳期(7世紀後半~8世紀前半)の寺院であると推定されています。



上：白鬚神社にある塔心礎



下：笠松別院にある塔心礎

② 森越後守居城跡

蓮台(現在の田代)に、森蘭丸ゆかりの蓮台城がありました。それが「森越後守居城跡」です。

森氏は、美濃守護の土岐家に仕え、200年にわたって、この地に城を構えていたといわれています。

蘭丸の父・可成は織田信長に仕え、「桶狭間の戦い」で手柄を立てるなど尾張の国の平定に貢献しました。永禄8年(1565)、美濃・兼山の領地を得て、烏峰城(のちに金山城と改名)に居城します。

蘭丸は、本能寺で信長と戦死したことで知られる武将です。蘭丸の誕生は兼山に移って直後のことというのが定説ですが、「笠松で生まれたのではないのか」という説もあります。

可成は勇猛な武将でしたが、「姉川の戦い」の前哨戦で戦死。その後を継いだ可成の子・長可も「長久手の戦い」で戦死。蘭丸ともども、いずれも非業な死に見舞われました。唯一生存した蘭丸の末弟(後の忠政)が、領地替えとなった津山藩(現在の岡山県津山市)の初代藩主になっています。

現在は蓮台城の痕跡はありませんが、周辺には森氏の末裔の方々が住んでいます。



蓮台城があったと伝えられる田代

③ 無動寺の戦い・土岐塚

天文13年(1544)、尾張の織田信秀(信長の父)が美濃へ攻め込んできたとき、斎藤道三の娘婿である土岐頼香が無動寺の光得寺に砦を構えて戦いました。これを「無動寺の戦い」といいます。

斎藤道三は、現在の羽島市に陣を張っていましたが、土岐氏を滅ぼそうと考へて、家来に命じて無動寺に陣取っていた頼香を殺害させました。大將を失った美濃勢は退散し、頼香は光得寺の隣のやぶ陰に葬られました。

その場所は「土岐塚」といい、今でも地域の人に大切に守られています。



無動寺にある土岐塚

④齋藤道三・織田信長別れの地

齋藤道三は、娘婿の織田信長が「うつけもの」という風評どおりの人物かどうか確かめるため、対面したいと申し込みました。

天文22年(1553)、信長は木曾川を越えて、富田(現在の一宮市)の聖徳寺まで出かけ、初の親子対面をしました。

道三は町屋の家に隠れ、やって来る信長をのぞき見すると、大小の刀は差していたものの荒縄を腰に巻き、瓢箪をぶらさげ虎革の半袴といった格好でした。しかし対面した時、信長は一変して正装。道三と湯漬けを食べ、盃を交わす儀式は無事に終了しました。

二人は帰路を共にし、田代村にさしかかると八幡神社(後に白鬚神社に合祀)で決別の儀式を取り交わしたと伝えられています。

道三は「まことに無念だが、わが子はたわけ(信長)の門外に馬をつなぐこと(家来となる)は、間違いないことであろう」といったと伝えられています。



田代にある白鬚神社

⑤米野の戦い跡 <町指定文化財(史跡)>

慶長5年(1600)、「関ヶ原の戦い」の1か月ほど前、池田輝政を中心とした東軍は木曾川を渡って米野に上陸し、対する西軍に大勝利しました。これを「米野の戦い」といいます。

この戦いで池田輝政に味方し、木曾川を渡河する水先案内人を務めたのは野々垣源兵衛久晴でした。池田勢の一番槍の手柄を立てた大塚権太夫は、岐阜勢の武将を討ち取りましたが、飯沼勘平長資に一騎打ちを挑まれ討ち取られませんでした。討ち取った飯沼も池田勢の武将に討たれました。勇敢な戦いをした2人の武将ですが、大塚の墓は無動寺に、飯沼の墓は岐南町平島にあります。

町営米野墓地には「米野の戦い跡」の石碑・句碑・詩碑が建てられています。米野町内会や

「米野の戦い史跡保存会」は、米野の戦いから410年目にあたる平成22年(2010)、亡くなった多くの武将らをしのび、慰霊祭を福蔵寺で開催しました。これまで10年目ごとに実施されています。



木曾川の堤防にある標識



慰霊祭で犠牲者を供養する米野の住民

2)陣屋の置かれた笠松

関ヶ原の戦いの後、幕府の政策により美濃国は幕府直轄領をはじめ、石高10万石以下の譜代大名、外様大名と70余りの旗本の領地に細かく分割され、それらの所領は複雑に入り組んでいました。交通の要衝であった笠松は、政治の中心地として発展しました。

①美濃郡代笠松陣屋・笠松県庁跡 <町指定文化財(史跡)>

江戸時代、10万石以上の幕府直轄領に郡代陣屋が置かれていました。全国に4つしかなかった郡代陣屋は、関東（現在の埼玉県北足立郡伊奈町）、美濃、西国（現在の大阪府日田市）、飛騨（現在の高山市）でした。

慶安3年(1650)、西濃から南濃地域を襲った豪雨による枝広洪水の復興工事に当たった代官岡田将監善政は、当時「笠町」と呼ばれていたこの地に休憩所となる臨時の役所を置きました。

寛文2年(1662)、名取半左衛門長知は「笠町」を「笠松村」と改め、美濃国における幕府の領地支配と治水土木対策を管轄する美濃郡代（代官）の陣屋を置きました。

笠松陣屋には、幕府直轄領からの年貢の徴収などの政治や裁判を行った「地方役所」と、川

の治水土木工事の指揮・監督にあたった「堤方役所」がありました。

慶応4年(1868)、江戸幕府が倒れると笠松陣屋は廃止され、明治元年(1868)に美濃国の一部が「笠松県」となり、陣屋の建物が「笠松県庁」として利用されました。

その後、明治4年(1871)の廃藩置県を経て岐阜県が誕生すると「岐阜県庁」となり、明治6年(1873)、岐阜町に県庁が移るまで岐阜県の行政の中心でした。

陣屋の敷地であった場所は、岐阜県政発祥の地を記念して「県町」と命名されました。



県町にある美濃郡代笠松陣屋・県庁跡



当時の建物の位置などが書かれた図

② 旗本津田・坪内・中川

旗本津田家は、初め織田信長に仕え、後に豊臣秀吉に従い、関ヶ原の戦いでは徳川家康に従いました。羽栗郡の長池村、三ツ屋村(現在の長池)、藤掛村(現在の田代)のほか、不破郡、可児郡、揖斐郡、安八郡、丹波国桑田郡(兵庫県北東部)など4,010石を知行しました。

津田家は、安八郡白鳥村(現在の池田町)に代官陣屋を置き、美濃国など支配し、江戸時代中期になって長池に代官所を設けています。

旗本坪内家は、織田信長に仕え、木曾川沿いの羽栗郡松倉(現在の各務原市川島松倉)に城を構えていました。その後、徳川家康に仕えて、各務郡(現在の各務原市)と羽栗郡のうち、米野村、江川村、中野村、無動寺村など6,530石を知行しました。

旗本中川家の代官陣屋は、門間にありました。初代中川半左衛門忠勝は、慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いなどで戦功をあげ、可児郡(現在の可児市)や羽栗郡の北舟原村・南舟原村・町屋村(現在の門間)など3,000石を知行しました。羽栗郡を治めていた知行所は、門間の春日神社の東にありました。

中川家の家系は十代に至り、四代「成慶」は日光東照宮造営の普請奉行を命じられています。



長池に残る旗本津田領代官陣屋跡の長屋門



門間の旗本中川氏知行所跡

③ 木曾川円城寺川並奉行所跡

延宝元年(1673)、木曾川沿いの円城寺と対岸の北方(現在の愛知県一宮市)に川並奉行が設置されました。

北方は木曾川左岸の尾張方を、円城寺は右岸の前渡村(現在の各務原市)から前野村(現在の羽島市)までの、川を往来する舟や荷物を取り締まっていた。

慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いの前哨戦で



円城寺川並奉行御番所跡

ある「米野の戦い」で、初代の野々垣源兵衛久晴は、東軍の徳川に味方して木曾川を渡河する水先案内に貢献しました。それにより 4 代目の野々垣源兵衛久政の時代になって川並奉行を任命され、木曾川流域に勢力を張る存在として不動の地位を固めました。

尾張藩主は代替わりの際、自領の岐阜町を訪れることを慣例にしていました。その際には円城寺の渡しを利用して、野々垣家に常に立ち寄り、藩主が岐阜へ向けて通った道を「お成り道」と呼んでいました。

現在、館跡や御番所跡は河川改修工事のため面影はありませんが、野々垣源兵衛一族の墓は、円城寺の専養寺にあります。

④ 畑 繋 堤 と 酒 井 七 左 衛 門

門間と岐阜市柳津町・羽島市が接する付近に「畑繋堤」と呼ばれる堤防があります。

宝暦3年(1753)、木曾川下流域で、洪水を防ぐために幕府の命により、薩摩藩が油島の食違堤や大樽川の洗堰などの「宝暦治水工事」を行いました。

この治水工事により長良川の水位が上がり、出水時に境川の水が逆流して、松枝輪中の農民は水害に悩まされることが多くなりました。

このため柳津村・足近村などの「松枝輪中」の農民は畑に土を盛り、その畑を繋いで堤を造ったのが「畑繋堤」です。

堤を造ることにより、被害を受ける「障村」と利益を得る「益村」の争いが続くため、堤を造ることは許されなかったのです。

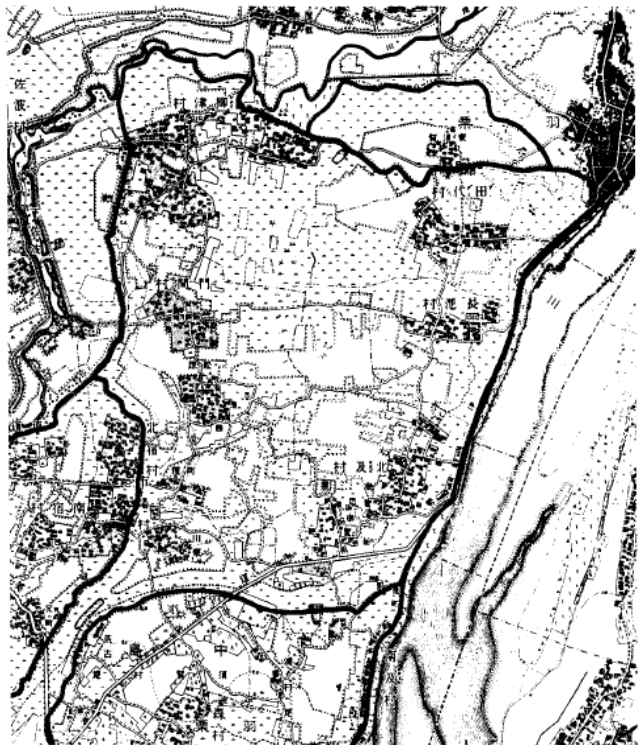
文化2年(1805)、尾張藩士酒井七左衛門は北方奉行に任命され、松枝輪中の農民の苦しみを救おうと築堤を黙認しました。

文化10年(1813)、幕府評定所に酒井は喚問され、農民の窮状を救うための築堤であること訴え、評定所も酒井が農民の窮地を救ったことを褒めました。

酒井の死後、農民はその恩に報いるため、慈眼寺に酒井と4人の獄中死した農民の墓を作り、今も法要を続けています。



昔の畑繋堤の大部分は県道となっています



松枝輪中 黒い太線が輪中堤

3)笠松に残る歴史的遺産

①光得寺の梵鐘 <岐阜県指定重要文化財(工芸品)>

梵鐘は文明7年(1475)、長塚(各務原市那加町)長塚の手力雄神社の鐘として製造されました。

大永5年(1525)、尾張国高田寺(愛知県北名古屋市高田寺)へ、さらに天正14年(1586)、尾張国万松寺(名古屋市中区)へ移り、明治9年(1876)、無動寺の光得寺に買い取られたものです。

梵鐘は、高さ 97.5cm、口径 58cm、重さ約 225kg、特に音色がよいといわれています。



光得寺の梵鐘

②ご神刀 <町指定文化財(工芸品)>

昔から刀は神聖なものとされ、神社に奉納されてきました。

八幡神社(八幡町)のご神刀は、刀二振、脇差四振、短刀一振の計七振があります。

産霊神社(西宮町)のご神刀は、脇差一振が奉納されています。長さは 44 cm あり、

「相州住正宗」の銘があります。

桐白稲荷神社(二見町)の脇差は、長さが 45.7 cm あります。「平泉住人寶壽」と刻まれており、室町時代の刀工、寶壽の作といわれています。姿・形・鍛えなどとても素晴らしいものとなっています。この作者は、奥州の平泉に住んでいたと考えられます。いずれにしても「寶壽」の銘が入った刀は、岐阜県ではめずらしく貴重なものです。



八幡神社のご神刀

③北門間の地蔵様 <町指定文化財(有形民俗)>

天明元年(1781)に作られた北門間の地蔵様は、昔から「はだか地蔵」と呼ばれています。地蔵様を村の辻に安置して、人々は安全を願ってきました。

現在の位置に移されるまでは、すぐ北の道の辻にありました。

言い伝えによると、門間に昔から伝わる相続講などと同じように、仏像を村から村へと持ち回って供養してきました。自然災害や病気から身を守るには祈り以外にはなく、地蔵様は村の安全を守るために、大きな役割を果たしていたと考えられます。



人々を見守っている地蔵様

④八幡神社の時鐘 <町指定文化財(工芸品)>

八幡町の八幡神社の時鐘は、第3代加納城主の奥平忠隆が、寛永7年(1630)、羽栗郡笠町の八幡神社の造営と自らの病氣快癒を願って奉納したと伝えられています。高さ51cm、口径34cm、重さ約13.5kgで、保存状態も良好です。

鐘の胴部には、薬師如来の守り神である十二神将のうち、迷企羅大将と波夷羅大将の2体を形取っています。形状から見て原形は、奈良興福寺にある木彫像のものとされています。

八幡神社の懸仏は、釈迦如来像を表した金属製で3面が伝えられています。懸仏とは、丸い銅板などの上に神像や仏像を表したもので、神社や寺院の御神体・御本尊を祀る内陣に懸けられています。どの懸仏も保存状態が良く、裏に土岐氏が奉納した様子が墨書きされています。これによって、八幡神社と美濃国守護土岐氏との間に深い関係があったことが推測されます。

八幡神社所蔵の御前幕は、寛政元年(1789)、第11代将軍徳川家斉が寄進したものです。御前幕とは、神仏の前や軒や棧敷の前に張る布のことで、表側には徳川家の「三つ葵」の家紋が金糸で細かく刺繍されており、裏面には16代美濃郡代辻六郎左衛門富守の墨書があります。



加納城主が奉納した時鐘



懸仏



御前幕

(時鐘と懸仏は町歴史未来館展示)

⑤慈眼寺の円空仏 <町指定文化財(工芸品)>

作者の円空は、寛永9年(1632)生まれの修行僧で、美濃、飛騨、尾張、遠くは蝦夷(北海道)など全国を回り、生涯で12万体の仏像を彫ったといわれています。

不動明王像は、高さ61.7cmで、左手に縄、右手に竜の巻きつく宝剣を持ち、毘沙門天像は、高さ62.7cmで、両手で宝塔を持っています。これらの円空仏は、口元に紅がらが残る珍しい仏像です。

2体の仏像が造られた年代は、円空が東北・蝦夷の旅から戻った延宝年間(1673~1680)とみられ、大きさや模様、力強さなどの面ですばらしく、平成11年(1999)には、ベルギーで開かれた円空展に出展され、その後、東京国立博物館の木像展にも貸し出されました。

これら2体の円空仏は、歴史未来館のリニューアルオープンに伴い、平成30年(2018)より歴史未来館の常設展示となりました。



毘沙門天像(左)と
不動明王像(右)

⑥瑞應寺の仏像

奈良町の瑞應寺は、江戸時代に建てられた禅宗の寺で、赤い門があることから赤門寺とも呼ばれています。美濃新四国八十八霊場の31番札所でもあり、町指定文化財(工芸品)の仏像が4体あります。

I 木造 聖 観音座像

<町指定文化財(工芸品)>

木造聖観音座像は、瑞應寺の本尊で、1本の木から彫られた一木造りの仏像です。

高さ11.3cm、右手の2指を捻じ、左手はハスの花を握っています(現在は失われています)。頭には宝石で飾った冠をつけ、胸飾りをし、腰には衣をつけて座っています。顔や像全体の形、衣の模様などの特徴から室町時代中期の作とされています。

厨子の背には、天保11年(1840)と墨書きされた紙が貼られ、後から修理されたものと思われる。



II 木造十一面観音立像

<町指定文化財(工芸品)>

木造十一面観音立像は、織田信長ゆかりの「敵一倍観世音菩薩像」という言い伝えがあり、興味深いものです。かつて岐南町の正傳寺に祀られていましたが、寺が無くなったため瑞應寺に移されたものです。

高さ40.5cm、頭上に11面の像をいただき、左手にハスの瓶を持って立っています。頬に丸みがあり、表情が穏やかで、衣の彫が浅く、表現は硬いところがみられることから、古い像を手本にして作った室町時代末期の作と考えられます。



III 木造千手観音立像^{もくぞうせんじゆかんのんりゅうぞう}

<町指定文化財(工芸品)>

木造千手観音立像は、頭の上に 11 面の像をいただき、多くの脇手を持って立っています(現在、両方の脇手はすべて失われています)。高さ 20.0cm、顔の表情は穏やかで、身につけている衣の彫り方はとてもすばらしいものです。台座の裏に寛文3 年(1663)と墨書きがあり、それによると京都の仏師・中沢久兵衛正勝^{なかせわ ぶっし}によって造られたことが分かります。この像は一木造りで、古い時代の色に似せて仕上げられています。



IV 木造僧形座像^{もくぞうそうけいざぞう}

<町指定文化財(工芸品)>

木造僧形座像は、おそらく正傳寺を造った僧の座像と考えられています。高さ 31.5cm、あらかじめ前後または左右に別の木を重ねて、頭体部を彫りだしていく方法で造られています。

目は玉眼^{ぎよくがん}、両手と脚は失われ、身につけている衣の裾^{すそ}が垂れ下がっています。その裏に墨書きがあり、それによると宝暦10 年(1760)に仏師・半兵衛^{はんべえ}によって造られたことが分かります。



⑦川原かわらからござったじぞうさま地蔵様

中野なかののお堂に「川原からござった地蔵様」が祀まつられています。

明治の初め、木曾川の大洪水のあった後、川原に流木を拾いに行った村人が6体の地蔵様を見つけ持ち帰りました。地元の人々は「川原からござった地蔵様」と呼び、昭和12年(1937)にお堂を建てました。

この地蔵様は天保6年(1835)、加茂郡おっぱらむら越原村(現在の東白川ひがしらかわ村)の人たちによって祀まつられていたことが、台座だいざに刻まれた文字きざによって分かりました。

木曾川上流部の東白川ひがしらかわ地域などでは、廃仏毀釈はいぶつきしゃくが厳しく行われました。そのとき、村人いかにだが地蔵様を舟か筏いかだに乗せ、川に流したのではないかといわれています。



お堂の中に安置されている6体の地蔵様

⑧キリシタンとうろう灯籠・大白塚だいうす

笠松小学校の中庭に「キリシタン灯籠」があります。昭和41年(1966)に西町の民家にしから移されたものです。灯籠の正面の下にはマリア像きざが刻まれ、キリスト教を密かに信仰ひそしていた人がおが拝んでいたとされています。

キリスト教は天文18年(1549)、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルによって初めて日本に伝えられ、その後、織田信長の庇護おだのぶながを受け、キリスト教の信者を増やしてきました。天正15年(1587)、豊臣秀吉はバテレン追放令ついはうれいを發布はっぷし、キリスト教を禁止しました。さらに徳川幕府は鎖国政策を取ったため、キリスト教の宣教師をはじめ外国人は日本への入国ができなくなりました。そのため、キリスト教を隠れて信じる人を「隠れキリシタン」と呼んでいました。

笠松には、大白塚てんもん(現在は田代の河川敷)と呼ばれる処刑場がありました。ここでは、隠れキリシタンや罪人が処刑されてきました。大白塚に建てられていた「南無阿弥陀なむあみだ仏ぶつ」「南無妙法蓮華經なむみょうほうれんげきょう」の石碑せきひは、下新町の善光寺境内ぜんこうじけいだいに移されています。

(※キリスト教の神「デウス」の漢字表記からくる「大白」塚の読み方は、「だいうす」「でうす」「おおうす」など諸説あります)



笠松小学校の中庭にあるキリシタン灯籠

4) 笠松の文化・文芸

① 伊藤冠峰

伊藤冠峰は享保2年(1717)、伊勢国菰野村(現在の三重県三重郡菰野町)の絹織物商、清水笹右衛門の次男として生まれました。名を一元、字は吉甫、雅号を冠峰と称しました。冠峰は幼少より読書を好み、名古屋に游学し、儒学に秀でた中西淡洲の教えを受けました。漢詩文に優れ多くの門人に敬愛されました。

また、名声の高い伊藤玄沢に医学を学び、やがてその妹の入り婿となり、姓を伊藤と改めました。

冠峰が笠松村に移住したのは、宝暦6年(1756)12月。居宅の周りに好きな竹を植えて「緑竹の園」としました。儒学・漢詩文の研究、子弟の教育、医師として地域の医療にも尽力しました。

友人たちが彼の才能を惜しみ、江戸や名古屋で活躍するように勧めても、簡易な生活に満足し、自らの名声を願わず、笠松に定住しました。そして勉学と医療に努め、子弟の教育に尽くしました。

天明7年(1787)に71歳で亡くなり、法伝寺(上本町)に葬られました。著書には、『自放編』『冠峰文集』『緑竹園詩集』などがあります。



笠松中央公民館南庭にある冠峰詩碑

② 角田錦江

角田錦江は享和3年(1803)、笠松村で生まれました。名を炳、字は文虎・春策、雅号を錦江と称しました。父の角田道玄は、医師で儒学を教えていましたが、錦江は15歳で父に代わり講義を行い、人々はその異色ぶりを褒めたたえました。

天保5年(1834)には笠松で「喬木塾」を開き、広く漢学を教授しました。郡代の家来分として陣屋への出入りを許されました。天保年間に美濃郡代野田斧吉が、錦江の人柄・学問の深さを幕府に報告し、白金3枚を賞賜されるようにはかったことから、その秀才ぶりがわかります。

数多くの逸話があります。成瀬犬山藩主から「文学の話を知りたい」と招かれましたがそれを固辞しました。また、藩校で『四書五経』の講義をすることを要請されても辞退しました。人からなぜかと問われ、錦江は「自分は多病であり、かつ野人であって習熟していない。従ってどうして仕官できようか」と答えたといわれています。錦江は生涯地元で、子弟の教育にあたり、名声や経済上の豊かさを求めませんでした。

明治17年(1884)に82歳で亡くなり、盛泉寺(西町)に葬られました。著作には、『国史千字文』『詠史絶句』などがあります。

③ ^{やまだとつさい}山田訥齋

山田訥齋は文化11年(1814)、笠松村で生まれました。名を^{これたか}惟孝、字は^{あざな}子友、雅号を^{しゅう}訥齋、通称は^{がごう}嘉兵衛と称しました。

祖父の^{よしくに}善国、父の^{くにはる}国春共に、代々薬屋を^{いとな}営んでいました。訥齋は幼少の時に父を亡くし、母に育てられたのですが、多岐にわたって、その才能を発揮しました。

例えば^{ひろせしゅんしゅう}広瀬春樵に書画を学び、さらに^{やまもとばいいつ}山本梅逸に入門し画風を磨きました。山水を得意とし、多くの人^{さんすい}がその書画を買い求めました。また、詩文、^{てんこく}篆刻、囲碁、茶華道、和歌などいづれにも秀でていました。

明治6年(1873)に60歳で亡くなり、^{ふくしょうじ}福證寺(司町)に葬られました。



山田訥齋の花鳥画
(町歴史未来館蔵)

④ ^{ばしょう}芭蕉ゆかりの地

^{れんこくじ}蓮國寺(八幡町)には「^{ばしょう}芭蕉の^{づか}むくげ塚」があります。

この地に「むくげ塚」を建てたのは、^{まつおばしょう}松尾芭蕉を慕う^{はいじん}笠松の俳人たちでした。

芭蕉は^{じょうぎょう}貞享元年(1684)、東海道、^{きんき}近畿、^{きそじ}木曾路など9か月におよぶ旅をしました。その様子を記したものが「^の野ざらし紀行」です。芭蕉が野ざらし紀行の途中、^{しずおか}静岡の^{おおいがわ}大井川で詠んだ^{むくげ}木槿の句があることから「むくげ塚」と呼ばれています。

なお笠松には、芭蕉の句碑が幾つかあり、笠松中央公民館には「四季の里」から移された「^{くひ}草いろおのおの花の^{てがらかな}手柄哉」、^{しょうみょうじ}称名寺(円城寺)には「^{なが}永き日を^{さえず}囀りたらぬ^{ひばり}雲雀かな」、^{ひえ}日枝神社(米野)には「^な草も木も離れ切つたる^{ひばり}ひばりかな」などの句碑があります。



蓮國寺にあるむくげ塚

⑤獅子門正式俳諧

「俳聖」と呼ばれる松尾芭蕉には、「十哲」と呼ばれる10人の主な弟子がいましたが、その一人が山県郡北野村(現在の岐阜市)生まれの各務支考です。

支考に始まる俳諧の流派を称して「獅子門」、あるいは「美濃派」といいます。獅子門のいわれは、彼が名のつた号「獅子老人」に由来します。

獅子門をまとめる統率者を「道統」と呼びます。その第1世は芭蕉、第2世は支考で、現在、第41世まで受け継がれています。その41世は笠松町在住の大野鶴土宗匠です。

笠松の地が獅子門の活動に果たした役割は大きく、大野宗匠に至るまでに、笠松から4人もの道統を輩出しています。

24世の三浦雲居(源助)宗匠は、天保2年(1831)の生まれで、米穀商から出版業に転じ、教科書を扱って岐阜の教育界に貢献しました。

30世の南谷翠濤宗匠は、明治6年(1873)生まれで、「獅子門俳人名鑑」を刊行しました。

32世の高橋清斗宗匠は、明治13年(1880)生まれで、「松韻」「長肥紀行」「現代連句入門」などの多くの書物を著わし、山口県や九州地方に俳諧の指導に出かけました。

ここでいう俳諧とは、連句のことであり、五七五の長句と七七の短句を交互に連ねて一定の句数の作品をつくる文芸をいいます。

そして、儀式的な連句を行う際には、その作法は会席の正面に「翁像」(翁とは芭蕉のこと)を安置し、その左右に2幅の掛け軸を掛け、硯箱や懐紙を乗せる「二見形文台」を置きます。



杉山邸で獅子門俳諧を披露

5) 笠松町の自然

① 笠松隕石^{いんせき}

< 町指定文化財(天然記念物) >

昭和 13 年(1938)3 月 31 日午後 3 時頃、屋根を突き抜けて、握り拳^{こぶし}くらいの隕石が民家に落ちてきました。重さ 721g、長さ 10.8cm、幅 6.5cm、高さ 6.2cm、比重は 3.57 となっています。

表面は黒くなっていて、小さな粒が含まれています。



笠松隕石^{いんせき}

② 神明神社のクロガネモチ^{しんめい}

< 町指定文化財(天然記念物) >

クロガネモチは、常緑の高木で、神明神社にあるクロガネモチは雌の木です。花は、5 月頃に咲き薄い紫色をしています。木の皮から「とりもち」を作るのでモチノキといい、枝や葉が黒いのでクロガネといいます。

下門間町内会では、木のまわりに柵^{さく}をめぐらせ、保護に努力しました。高さ 16m、目通り 234 cm、樹齢は 200 年程度と推定されています。



神明神社のクロガネモチ

③ 盛泉寺のイチョウの木^{じょうせんじ}

< 町指定文化財(天然記念物) >

イチョウは、落葉の高木で、盛泉寺にあるイチョウは雌の木です。

高さ 18m、目通り 430cm、樹齢は 490 年を超えると推定されていることから、盛泉寺が西町の現在の位置に移った元和元年(1615)以前からこの場所にあったと考えられています。

秋には実をつけ、黄金の葉が輝く姿は非常に美しく、地域の人々に愛されています。



盛泉寺のイチョウの木

6) 笠松町の文化財一覧

国登録文化財

種類		名称	所在地	指定年月日
登録有形文化財	建造物	岐工記念館(旧岐阜県工業試験場)	常盤町 1700	平成 12 年 4 月 28 日
	建造物	杉山家住宅主屋	下本町 63	平成 18 年 3 月 2 日
	建造物	和田家住宅主屋	八幡町 96	平成 29 年 6 月 28 日
		和田家住宅土蔵	八幡町 96	
		和田家住宅門及び塀	八幡町 96 他	

岐阜県指定文化財

種類		名称	所在地	指定年月日
有形文化財 記念物	工芸品	梵鐘	無動寺 221 (光得寺)	昭和 40 年 6 月 15 日
	史跡	木曾川笠松渡船場跡「石畳」	港町	昭和 42 年 11 月 13 日 追加指定 平成 21 年 10 月 16 日
民俗文化財	無形民俗	円城寺の芭蕉踊	円城寺 919 (円城寺芭蕉踊保存会)	平成元年 11 月 14 日
	無形民俗	笠松の奴行列	司町 1 (笠松大名行列お奴保存会)	平成 7 年 11 月 21 日

笠松町指定文化財

種類		名称	所在地	指定年月日
記念物	史跡	美濃郡代笠松陣屋・笠松県庁跡	県町 67-1	昭和 38 年 3 月 30 日
	史跡	東流廃寺(蓮台寺)塔礎石(1)	田代 670(白鬚神社)	昭和 41 年 3 月 1 日
	史跡	東流廃寺(蓮台寺)塔礎石(2)	西宮町 42(東別院)	昭和 58 年 6 月 28 日
有形文化財	工芸品	八幡神社御神刀 7 振 (刀 2 振 脇差 4 振 短刀 1 振)	八幡町 117(八幡神社)	昭和 49 年 11 月 11 日
	工芸品	産霊神社御神刀 1 振	西宮町 130(産霊神社)	昭和 49 年 11 月 11 日
記念物	天然記念物	盛泉寺のイチヨウの木	西町 1(盛泉寺)	昭和 49 年 11 月 11 日
	天然記念物	笠松隕石(1 個)	新町(個人蔵)	昭和 63 年 6 月 29 日
	史跡	米野の戦い跡	米野 640 (米野の戦い史跡保存会)	平成元年 7 月 25 日
	天然記念物	神明神社のクロガネモチ	門間 1882(神明神社)	平成 2 年 3 月 14 日
民俗文化財	有形民俗	北門間の地藏様	門間 522-1 (北門間町内会)	平成 2 年 9 月 11 日
有形文化財	工芸品	八幡神社の懸仏(3 面)	八幡町 117(八幡神社)	平成 6 年 12 月 20 日
	工芸品	八幡神社の時鐘	八幡町 117(八幡神社)	平成 6 年 12 月 20 日
	工芸品	桐白稲荷神社の脇差	二見町 73(桐白稲荷神社)	平成 7 年 3 月 10 日
	工芸品	円空作不動明王像	門間 1502 (慈眼寺)	平成 9 年 10 月 8 日
	工芸品	円空作毘沙門天像	門間 1502 (慈眼寺)	平成 9 年 10 月 8 日
	工芸品	木造聖観音像	奈良町 65(瑞應寺)	平成 9 年 10 月 8 日
	工芸品	木造十一面観音立像	奈良町 65(瑞應寺)	平成 9 年 10 月 8 日
	工芸品	木造千手観音立像	奈良町 65(瑞應寺)	平成 9 年 10 月 8 日
	工芸品	木造僧形座像	奈良町 65(瑞應寺)	平成 9 年 10 月 8 日
	古文書	高嶋久右衛門家文書 「鮎鯨宿次文書」	下本町 87	平成 30 年 2 月 15 日
	工芸品	円空作護法神像 (瑞應寺)	笠松町歴史未来館 (保管)	令和元年 12 月 20 日

6. 笠松町の年中行事

1) 笠松春まつり

桜の花が咲き始める頃、「笠松春まつり」が開催されます。木曾川^{かはん}河畔に広がる笠松みなと公園で開催される「桜まつり」では、多くの花見客でにぎわいます。

奈良津堤の桜

八幡町から奈良町にかけて、木曾川の堤防道路に沿ってのびるソメイヨシノを中心する桜並木は「奈良津堤の桜」として親しまれ、かつては「奈良津堤の千本桜」といわれていました。この桜並木は名鉄電車の中からも見ることができ、その美しさは笠松の春の風物詩として、社団法人岐阜県観光連盟の「飛騨美濃^{ひだみの}さくら 33選」に選ばれています。



満開の奈良津堤

桜の開花時期には、「桜まつり」の会場として、桜並木のライトアップや露店^{ろてん}の出店などが行われていましたが、平成30年(2018)に西日本を中心に甚大^{じんたい}な被害をもたらした台風による倒木などを受け、平成31年(2019)からは安全面を考慮して「桜まつり」の会場は笠松みなと公園に移されました。

産霊^{さんれい}神社の「宵^{よい}まつり」のほか、江戸時代の市場の賑わいを再現した「笠松陣屋市^{じんや}」も開催され、4月中旬の「本まつり」には、「御輿^{みこし}」や「山車^{やま}」が出て、地域の神社に奉納されます。笠松地域では、岐阜県重要無形民俗文化財の「大名行列お奴」が八幡神社と産霊神社に奉納されています。

おばば

「おばばどこいきやるナー おばばどこいきやるナー 3升樽さーげて ソウラバエー・・・」と歌われる岐阜県の民謡「おばば」は、笠松町が発祥の地といわれています。本まつりでは、「調才^{ちようさい}」と呼ばれる花みこしと一体となって、太鼓を取り付けた「ポポ車」と呼ばれる「おばば」が登場し、太鼓を打ち鳴らしながら、笛の音に合わせて、歌い練り歩きます。



神社に奉納される「おばば」

かさまつ やっこぎょうれつ 笠松の奴行列 < 岐阜県重要無形民俗文化財 >

笠松を代表するものに「奴行列」があります。毎年4月の本まつりには、本町通りから八幡神社、産霊神社まで行列を成して披露されます。

「サアー・サヨンヤナアー、コラ・コラサーのサ」という掛け声と共に鮮やかな手さばきで、毛槍けやりを投げ渡しながらか練り歩く様は見事です。笠松には美濃郡代笠松陣屋が置かれ、この地方の幕府直轄領ちよつかつりょうを治めていました。人々は、郡代くんだいを大名だいまようと同格どうかくと考え、江戸時代の後期から奴行列を始めたという話も伝わっています。

現在は「笠松大名行列お奴保存会」が中心となり、小中学生も参加して伝承に努めています。

この行列の「奴の毛槍振り」は、平成7年(1995)に岐阜県重要無形民俗文化財に指定されています。



大鳥毛の投げ渡し

2) 笠松川まつり

毎年8月15日に、木曽川河畔の笠松みなと公園で「笠松川まつり」が行われます。

木曽川の川面の台船から打ち上げられる花火は、間近で観ることができ、音と光の競演が迫力満点です。花火が中盤ちゆうばんにさしかかると、川面には多くの万灯ばんとうが浮かびあがり、木曽川を幻想的に彩ります。

近年は、大切な人へのメッセージを添えた「メモリアル花火」も好評で、夏の夜空に大輪の花を咲かせます。

もともと川まつりは、水天宮すいてんぐうの例祭でしたが、明治になって提灯の「山船」を出し、万灯流しと打ち上げ花火が行われるようになりました。

現在では、万灯流しと打ち上げ花火が行われ、笠松のお盆の風物詩です。



木曽川を流れる万灯と打ち上げ花火

3) リバーサイドカーニバル

毎年 10 月の第 3 日曜日に、笠松みなと公園で開催されるリバーサイドカーニバルは、町民による手作りイベントとして始まり、現在は「かさまつまちづくりイベント実行委員会」主催で行われています。

ステージでは、郷土^{きょうど}芸能や園児をはじめ小中学生による演技や演奏などが繰り広げられ、会場には、ちびっこ・ふれあい・グルメコーナーなど多くの出店があり、一日中楽しめる住民参加型のイベントです。



秋晴れのもと繰り広げられた小学生の演奏

4) かさマルシェ

近年春には、笠松みなと公園で「かさマルシェ」が開催されています。

民間^{しゅどう}主導による「笠松町プロモーション協会」主催のこのイベントでは、飲食や物販など様々な店舗が出店し、ダンスや DJ パフォーマンス、その他にも体験型の企画が楽しめ、若者を中心に町内外の多くの人たちで賑わうイベントです。



かさマルシェで買い物や飲食を楽しむようす

5) 地域に根付く年中行事

① お湯立て^{ゆた}神事

明治の始めまで、米野の^{こめの ひえ}日枝神社や^{むどうじ}無動寺の^{ただし}正神社、江川の^{えがわ つしま}津島神社で、「お湯立て」と呼ばれる神事が行われていました。お湯立ては、もともと神を招いて、お告げを聞くために行われていたものでした。

近年になり米野町内会は、途絶えていたこの神事を復活させ、4月の笠松春まつりの日に行っています。日枝神社の^{はいでん}拝殿前では、四隅にしめ縄を張り巡らし、真ん中に^{おおがま}大釜を据え、火を^た焚いて湯を^わ沸かします。神主が^{かんぬし}祝詞をあげた後、^{かさ}笹の葉をその湯に浸し、お参りしている人たちの^{たいへい}頭上に振りかけ、健康安全・学業進展・天下泰平を祈願します。

② 茅^ちの輪くぐり

茅の輪くぐりの行事は、毎年 6 月 30 日、笠松地域の八幡神社で行われます。

茅^{かや}で作られた輪を 8 の字を書くように 3 度くぐると、病気をせずに無事夏越^{なご}しすることができるといういわれがあります。

笠松菓子組合では、この日、1日限定で「みそぎ餅^{もち}」を販売しています。毎年、正午には売り切れる「みそぎ餅」は、無病息災^{むびょうそくさい}を祈って食べられています。



無病息災を願い行われる 茅の輪くぐり



1日限定で販売される「みそぎ餅」

③地蔵盆^{じぞうぼん}

町内には多くの地蔵堂があり、現在も「地蔵盆」が行われる地域があります。

中野^{なかの}の地蔵盆は、8月と3月に「川原からござった地蔵様」(P21 参照)のお堂の前で行われます。お堂の前に提灯^{ちようちん}を飾り、かんから太鼓をたたいて町内に地蔵盆を知らせます。地蔵は子どもの守り神で、感謝と供養^{くよう}のため住職がお経をあげます。

松枝地域などでも、伝統行事として受け継がれています。

④あんどん祭り

毎年8月22日、円城寺の秋葉神社^{えんじょうじ あきば}の祭礼で、「芭蕉踊^{ばしょうおどり}」(P31 参照)と共に「あんどん祭り」が行われています。あんどん祭りがいつ頃から始まったかは定かではありませんが、「野々垣源兵衛の鉄砲組^{ののがきげんべい てっぽう}が屋形を最初に作った」といわれ、江戸時代後期から明治初頭には始まっていたと思われます。

また、笠松春まつりの宵まつりでは、産霊神社境内に西宮町町内会により、多くのあんどんに明かりが灯され、まつりを盛り上げています。

えんじょうじ ばしょうおどり
⑤円城寺の芭蕉踊 <岐阜県重要無形民俗文化財>

円城寺には、江戸時代から伝わる「芭蕉踊」があり、毎年8月22日に、円城寺の秋葉神社で披露されています。

雨乞い踊りの一つとされ、2人1組で、1人は竹に紙を付けて芭蕉の葉にみたてたものを背負って腹に太鼓を付け、もう1人は、すり鉦を持ち、『ヤラー東西しずまれ唄おろそあまりの日照りがかなしさに…』と唄いながら踊ります。



秋葉神社前で披露される「円城寺の芭蕉踊」

かつて、円城寺の芭蕉踊の場であったのが、おふじの宮(富士神社)でした。

昔、村人が日照りで苦しんでいたとき、おふじさんの「長森の手力様に雨乞いをすれば、ちゃんと雨がもらえる」という言葉どおりに雨乞いをしましたが、雨が降りませんでした。そのことに悲しくなったおふじさんは、自らの命を絶って手力雄神社に祈ったところ恵みの雨が降り出したと言い伝えがあり、このおふじの宮の脇を通る坂は「おふじの坂」と呼ばれています。

現在、この芭蕉踊は「円城寺芭蕉踊保存会」が中心となって、小学生も参加して後世に伝承されています。

こんせいだいみょうじん
⑥魂生大明神の例大祭

毎年11月3日、奈良津堤の魂生大明神の例大祭では、祭典、神事、厄払いなどの行事が行われています。ここには、全国的にも珍しい魂生大明神が祀られており、地元では「魂生様」と呼び、縁結びの神様として信仰されています。もともとは、笠松陣屋の脇に祀られていましたが、いつの頃から消えてしまったのを、奈良津堤に再建されたものです。



魂生大明神の御社

境内には「へそ塚」があり、生命の源、愛情の源として全国から「へその緒」を預かり、心身の健康が祈られています。

昭和59年(1984)には「おへそ音頭」も発表され、「おへそ踊り」が披露されていました。

⑦^{しんかさまつおんど}新笠松音頭

笠松町内では、夏に盆踊りを行うところが少なくなりましたが、笠松春まつりの本まつりパレードや町民大運動会、小学校の運動会などで「新笠松音頭」が踊られています。

^{しんかさまつおんど}
新笠松音頭

ハア～ 美濃の笠松 チョイト絵になる姿
西は伊吹よ 東は木曾路
私しゃ木曾路の 流れに育ち
踊り上手で 花ならつぼみ
サアサ唄えや踊れや 心そろえて
ソレソレソレ 笠松音頭で シャンシャンシャン

ハア～ 咲いた開いた
チョイト奈良津の桜
肩にさくらの 枝垂しだれをくぐり
燃えるおも想いを 魂生さまに
願いかけましょ この手をあわせ

ハア～祭りゆかしや
チョイト笠松まつり
見やれ奴やっ子も 毛槍けやりをかざし
大名行列 天下をわかす
花のみこしもやんれ はずみがち

ハア～夏の涼みは
チョイトボートを浮かべ
好きなあなたと 木曾川下り
恋は櫓ろまかせ
しづきにぬ濡れて
夢も楽しや 恋風しのぶ

ハア～月もおぼろな
チョイト星月灯り
恋の笠松 肩よせ歩ろきゃ
露地の裏まで 人情の花が
咲いてこぼれる 光を浴びて



町民大運動会では子どもたちも踊りました



笠松春まつりの本まつりパレード

7.笠松町の交通と産業

1)笠松へ続く道と川

笠松町は、江戸時代に「美濃郡代笠松陣屋」(P14 参照)が置かれるなど、政治の中心地として発展したといわれますが、その発展は交通の要衝という地理的な条件が強く、物資が集散する所であったことに大きな要因があります。

鮎鮓街道と笠松問屋跡

笠松町内を、岐阜の長良川の鵜飼でとった鮎を「熟れ鮓」に加工し、5日間かけて江戸まで届けるための献上用の鮎鮓荷が運ばれた街道「鮎鮓街道」が縦走しています。

長良川鵜飼の鮎漁は、旧暦の5月から8月までです。江戸時代後期には、10日に1回ほど運ばれ、年10回献上されていました。

鮎鮓は、岐阜城の麓の岐阜公園近くにあった「御鮓所」で鮎を塩漬けし、鮎の腹にご飯を詰め込んだもので、程よい発酵によって鮓になったものです。鮓の熟れ具合を計算して作られているため、宿次は遅れを許されず、各宿問屋には荷物を受け取った時刻と送り出した時刻の記録が義務付けられるほど厳密な時間管理のもと、江戸まで運ばれました。

御鮓所を出発し、加納宿の問屋「熊田家」を経た荷は、笠松の問屋「高嶋家」(下新町)で笠松衆約15人に引き継がれ、木曾川を渡って一宮へ引き継ぎました。その後、清洲、名古屋、熱田を経て東海道を江戸に向け、昼夜を通して運ばれました。これを「宿次」と呼び、岐阜から江戸まで46の宿問屋を経て運ばれ、その荷運びを担ったのは、その土地の人々でした。

高嶋家には、鮎鮓の運搬に携わった人々を記録した人足帳や、荷物の受け渡しを記録した古文書(P26 参照)など、当時の様子がわかる貴重な資料が残されており、町有形文化財にも指定されています。

近年、鮎鮓を献上するために通った街道を歩く「鮎鮓街道ウォーク」が小中学生も参加して行われ、当時の様子を再現しています。

なお、鮎鮓街道の「鮓」の字は「鮓」が使われることもあります。また、岐阜市では「御鮓街道」といわれています。



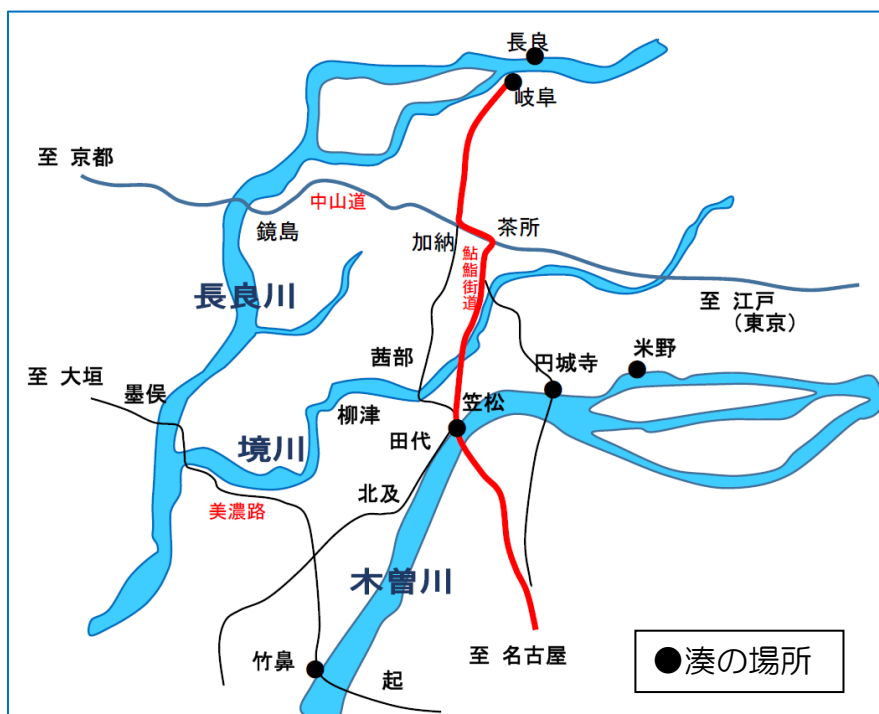
鮎鮓街道の標柱と句碑の前で再現

慶安3年(1650)に美濃郡代が笠町に「休憩所」を設置するよりも前の元和3年(1617)に、笠町に「往来人馬問屋」が設置されました。この往来人馬問屋は、本巢郡真桑村(現在の本巢市)から献上する「真桑瓜」と岐阜から献上する鮎鮓を、江戸の将軍家に運ぶために、

笠松に問屋を置き、加納宿から送られてくる献上品を受け取り、人足と馬を使って、一宮まで輸送することが任務でした。

岐阜から名古屋に至るには、笠松を通り、木曾川を渡るのが一番近道でした。

この道は、中山道加納宿の近くにある「茶所」から南進する道で、名古屋に通じることから「名古屋道」、また笠松に通じることから「笠松道」ともいわれました。



木曾川笠松渡船場跡「石畳」 <岐阜県史跡>

笠松湊は木曾川流域最大の川湊で、水運の中継地点として発展し、上流からは年貢米、木材、薪炭などが、下流からは海産物、塩、酢、酒、醤油などが運ばれました。

明治18年(1885)、笠松湊に寄港する船は1日平均38隻余りにもなり、明治25年(1892)頃までは、桑名(現在の三重県桑名市)から外輪蒸気船の定期便が1日2往復していました。

しかし、明治22年(1889)の東海道本線全通以後は、輸送の主体が鉄道に移り、賑わいが失われていきました。

全盛時の湊をしのぶ史跡として「石畳」があります。大八車の車輪が坂道に食い込まないように、大きな石を敷いて地面を固くしたものです。

今の石畳は、明治11年(1878)明治天皇巡幸のときに改修されたもので、平成21年(2009)の公園改修工事により、地中に隠れていた長さ77mの石畳が姿を現わしました。

総延長114mの石畳から、江戸時代の面影をしのぶことができます。



港町にある石畳

木曾川の緑地公園上の堤防は、かつての「伊勢道」で、「右竹鼻高須道 左伊勢道」という道標が建っていましたが、後に松枝小学校の校庭に移されました。また、現在の下本町と港町の四つ辻は、伊勢道に通じるため、木戸を置き通行人の取り締まりを行っていました。



松枝小学校の校庭にある道標



鎌倉街道(北及の児神社前)

笠松の鉄道

明治 22 年(1889)、新橋から神戸までの東海道線の開通によりこの地方の鉄道敷設が始まり、明治 27 年(1894)、愛知馬車鉄道株式会社が設立されました。これが現在の名古屋鉄道株式会社(名鉄)です。岐阜では、美濃電気軌道株式会社が、岐阜から笠松への鉄道敷設を計画。大正 3 年(1914)、加納町広江(岐阜市)から笠松町八幡神社北の二見町までの 4.7km が開通しました。



名鉄笠松駅

昭和 10 年(1935)には木曾川鉄橋が完成し、岐阜・一宮間が開通しました。その後さらに名古屋まで延伸され、現在の名鉄の路線延長は、444.2km となっています。

笠松町内には、名鉄名古屋本線のほかに羽島方面に延びる名鉄竹鼻線があり、笠松駅と西笠松駅の 2 つの駅があります。以前は木曾川鉄橋近くに東笠松駅がありましたが、現在は廃止されています。

笠松駅から名鉄岐阜駅まで約 5 分、名鉄名古屋駅まで約 23 分で行くことができ、通勤・通学などの大切な公共交通機関です。笠松駅の 1 日の乗降客は、約 6,500 人で、最も多く電車が停発する時間帯では、名古屋方面 12 本、岐阜方面 11 本、新羽島方面 5 本が運行されています。



笠松みなと公園から名鉄の木曾川鉄橋を臨む

鎌倉時代には、京都と鎌倉を行き来する人が増え、「鎌倉街道」が整備されました。この付近では、南宿と北宿(羽島市)の間を通っていました。笠松では及川(足近川)に架けられた及橋を渡り、町屋(下門間)に入り、北側の秋葉神社北より、村の裏を通り、北及の児神社前を経て、黒田(一宮市)に出ました。

木曾川に橋が架けられるまで、笠松湊は尾張と美濃を結ぶ重要な湊でした。現在のよう
に鉄道や自動車がなかった時代には、木曾川を利用した船運も盛んで、明治維新後は伊勢
方面との交通が盛んになり、笠松湊と桑名湊(現在の三重県桑名市)を結ぶ水運が繁盛しま
した。木曾川の船運と主要な街道があった笠松湊周辺には、商家が軒を並べ、宿屋・料理
屋なども多く集まっていました。

明治 43 年(1910)、木曾川橋が完成すると、この道路は国道 22 号となり主要道路とな
りました。昭和 10 年(1935)に、木曾川鉄橋が完成し岐阜と一宮間が電車で結ばれると、
船運から陸運に変わっていきました。

公共施設巡回町民バス

昭和 60 年(1985)の試行運行を経て、中学校の統合により昭和 61 年(1986)4 月に通
学バスとして運行を開始しました。平成 5 年(1993)には、役場など公共施設への交通の
利便性を高め行政サービスの充実を図るため 1 日 4 回の試行運行を開始し、その後、
車両の大型化、運行回数の見直し、集合場所(バス停)も増やし、平成 17 年(2005)から
1 人 1 乗車 100 円の有償運行となり、現在に至っています。

現在の公共施設巡回町民バスは、「米野高瀬」行きと「下門間」行きの 2 路線で、集
合場所は 39 か所あります。午前 7 時 20 分から午後 6 時 20 分まで、平日・土曜日は 1
時間に 1 回、日曜日・祝日は 2 時間に 1 回の間隔で運行しています。また、令和 2 年
(2020)10 月から平日のみ各始発のバス停から名鉄笠松駅バス停に向かう午前 6 時 40
分発の始発と、名鉄笠松駅バス停から各始発のバス停に向かう午後 19 時 40 分発の最
終便が増発しました。公共施設巡回町民バスの車体は、遠くから見てもよく目立つ赤色
に統一されています。

平成 30 年(2018)12 月 25 日、累計利用者は 200 万人になりました。平均の月間利用
人数は 5,000 人、年間 60,000 人を超えています。(令和 3 年度実績)

令和 3 年(2021)5 月に新型の小型ノンステップバス 2 台
を購入しました。ウイルスの脅威から利用者を守るため、
2 台ともに空気清浄機を設置、皆さんが安心して利用できる
バスを目指しています。

笠松町内では公共施設巡回町民バスの他、岐阜市の
「境川らくちゃんバス」、岐南町の「岐南町コミュニテイ
タクシー」、各務原市の「ふれあいバス川島線」、岐阜バス
(岐阜乗合自動車(株))の「笠松川島線」と「笠松県庁線」が運行されています。



令和 3 年に導入した新型の
公共施設巡回町民バス

2) 美濃縞の発展と笠松町の商工業

木曾川が運んだ肥沃な土壌は農業に適し、江戸時代には、稲作中心の農業がこの地の基本産業でした。一方、木曾川水運の川湊に物資が集散すると、米以外の農産物の栽培・商品化が進みました。江戸中期には、農民の衣類に利用されていた麻に変わり、生糸に比べて生産が容易な「木綿」が栽培され、「綿・綿布」の商品化が進みました。

ハツシモ

笠松町で生産される水稻は、そのほとんどが「ハツシモ」です。

町の農家数は338戸、水田作付面積は62ha、米の収穫量は286tです。

ハツシモの米粒は大きくて艶もよく、冷めてもおいしいといわれ、寿司米としても重宝されています。その名は美濃地方で生産され、大粒で収穫時期が遅い品種で、初霜が降りる頃に収穫することから名付けられたといわれています。

明治から大正にかけて、笠松町の繊維工業、中でも製糸業は大工場を中心に発展しました。また、織物業は大正中期から飛躍的に発展し、岐阜県工業の生産額でも首位を占めていました。

平成26年の笠松町内の事業所数(主なもの)

この織物業の発展は「美濃縞」の本場であった笠松に顕著に現れていました。「繊維のまち・織物のまち」といわれた笠松町には、紡績関係の大工場も多く建設されました。戦時体制下に、日本特殊毛織株式会社の工場を誘致しましたが、企業整備により軍需工業に転用されることになり、小林製作所笠松工場となりました。この工場

産業別	事業所数	従業者数(人)
製造業	202	2,700
卸売業・小売業	266	1,710
宿泊・飲食業	71	386
医療・福祉	74	2,292
サービス業	84	337

平成26年経済センサス—基礎調査

は、兵器を製作する鉄工所で、笠松町内最大の企業でした。戦後に、この工場の場所は岐阜刑務所が主管する「笠松女子紡績作業場」となりました。昭和23年(1948)、格子なき刑務所という新しい構想で誕生した「笠松女子職業学園」は、昭和24年(1949)に「笠松刑務所」となり、矯正展をはじめ各種のイベントを通じて地域との交流を深めています。

現在でも笠松町には、繊維を扱う製造業や繊維や衣服を扱う卸売業・小売業が多くあります。また、商業の町らしく和菓子を扱う菓子店や、老舗の飲食店が目立ちます。近年は、繊維以外にも、食品製造業や機械系産業、航空宇宙産業などのハイテクメーカーもあり、新時代の工業を担うものとして期待されています。

また、商店街の活性化を目指し、町では新しく創業する方を支援するため、「笠松町創業支援事業計画」を策定し平成29年(2017)5月に国から認定を受けました。商工会などで開催する特定創業支援事業を受けると、会社設立時の登録免許税軽減などのメリットがあります。

美濃縞

古くから笠松の名産品として知られた木綿織物の「美濃縞」は、江戸時代から農閑期の副業として織られてきた紬織で、縞のように織られたことからそう呼ばれています。

美濃縞は、「菅大臣縞」「棧留縞」「美濃結城」をはじめ、「加比丹」「武蔵織」などを総称していわれてきました。開発・工夫がなされ、用途も多様化され、明治になるとますます発展し、斬新な織物として高い評価を受けました。

明治末期には、原材料に綿や絹の他に、毛・麻なども使い、時代の変化に合わせて「緋」や「無地染」「白生地」を生産する者も多くなってきました。大正11年(1922)頃は、美濃縞織りの最盛期でした。

笠松では織物工場が年々増加し、明治14年(1881)に織物製造業者の組織「美濃縞会社」が設立されました。美濃縞などの品質を高めるために、明治43年(1910)、岐阜県工業試験場の第1分場が新町に建築され、大正15年(1926)には、技術者養成のための岐阜県第一工業学校が建設されました。さらに、昭和4年(1929)、学校敷地内に岐阜県工業試験場の本館(P40参照)が、岐阜市八ツ梅町から移転してきました。

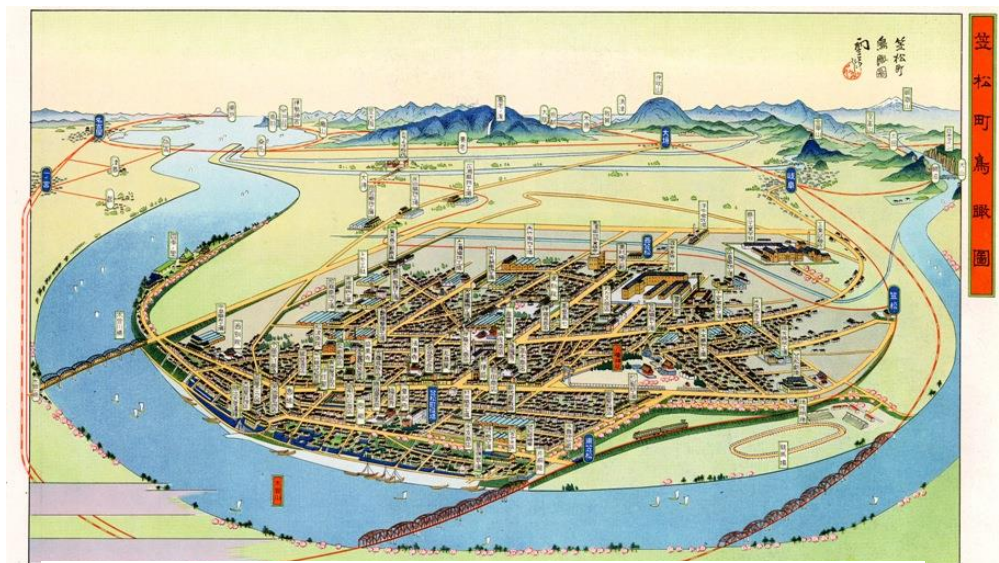
美濃縞会社は、明治26年(1893)に金融に関わる業務を分離し「笠松銀行」を設立しました。この笠松銀行は、明治45年(1912)に名古屋銀行(のちの東海銀行、現在は三菱UFJ銀行)に吸収合併されています。

明治29年(1896)、「岐阜県美濃縞組合」となり、美濃縞が県から重要物産に指定されると「岐阜県美濃縞同業組合」に組織変更しました。昭和に入り、海外進出と国内向け製品の充実に努めた結果、従来の縞物は少なくなり、有染色絹物、綿織物、毛織物などの織物が多くなり、組合名称も縞の字を削り「美濃織物同業組合」と改められました。

その後も、組合の名称を「岐阜県美濃綿織物工業組合」「岐阜県綿スフ麻織物工業組合」と次々に変更されましたが、現在は「美濃織物工業協同組合」となっています。



美濃縞の反物(町歴史未来館展示)



紡績工場が多く描かれた 吉田初三郎の「笠松町鳥瞰図」

笠松の銘菓

笠松には、和菓子店がたくさんあります。その理由はいろいろありますが、そのひとつに寺院が多くあり、法事などの供物に使われていることがあげられます。

また、江戸時代には美濃郡代笠松陣屋、明治の初めには笠松県庁や岐阜県庁が置かれ、行政の中心地であったことや、木曾川の水運や街道を利用した物流産業、美濃縞を主とする織物産業などの商業の町であったことから、接待のお茶うけとして和菓子が使われたようです。

平成20年度(2012年度)、笠松中学校の生徒たちが、町の活性化のため町長に提案したアイデアの一つが、笠松競馬場で走る競走馬の蹄に付ける「蹄鉄」の形をしたクッキーです。この中学生のアイデアをもとに、笠松菓子組合の皆さんが改良して「蹄鉄クッキー」と名付けてデビューさせました。名鉄笠松駅構内にある「ふらっと笠松」や町内の和菓子店で、このクッキーを購入することができます。

かつて、京都へ向かう途中の豊臣秀吉に、木曾川畔で献上されたお菓子が今でも残っています。永禄5年(1562)に創業した和菓子屋「太田屋半右衛門」が代々作り続けてきた和菓子「笠松志古羅ん」です。「太田屋半右衛門」の代表者が亡くなり、後継者がいないことから廃業されましたが、残された親族と笠松菓子組合が

「歴史ある菓子を後世まで残したい」との思いで、菓子組合が継承することになりました。この「志古羅ん」という名前は、豊臣秀吉に献上した際、「かたちは兜の鍔（兜の鉢の左右、後方に付けて垂らし首から襟の部分を守る武具）に似て、香りは蘭の如し」と命名したと言い伝えられています。

令和3年度(2021年度)には、かつて笠松町の民家に落下した「笠松隕石(P25参照)」をモチーフとしたお菓子「笠松隕石最中」が笠松菓子組合により開発されました。真っ黒な見た目と形から隕石を感じさせるこのお菓子は、町内の和洋菓子店などで購入できます。



銘菓 蹄鉄クッキー



「笠松志古羅ん」



笠松隕石最中

和田家住宅主屋、土蔵、門・塀 <国登録有形文化財>

八幡町にある「和田家住宅主屋」は、木造2階建の民家で、平入、切妻造、棧瓦葺の近代和風建築です。養蚕業で財を成した和田喜一郎さんが、昭和前期に京都の大工に依頼し、良質な材を用い優れた意匠が施された邸宅で、本格的な洋間も備えています。外部にも内部にも改変が少なく、平成29年(2017)に主屋、土蔵、門・塀の3件が「登録有形文化財」に登録されました。旧街道に合った屋敷全体の景観と、主屋の優れた意匠が造形の規範となっていることが評価されたものです。



和田家

岐工記念館(旧 岐阜県工業試験場) <国登録有形文化財>

常盤町の「岐工記念館」は、岐阜県立岐阜工業高等学校の敷地内にあります。

昭和4年(1929)、岐阜県工業試験場の本館として建築され、笠松の繊維を中心とする地場産業の発展に大きく貢献しました。

昭和21年(1946)、昭和天皇が岐阜県を巡幸された時に、ここに宿泊され、その後、試験場が北及に移転するのに伴い、学校の施設になりました。

記念館は白壁の洋館木造瓦葺2階建て、延べ面積は427㎡、窓は縦長。檜製の天井は格子状で、窓枠や手すりも木製です。平成12年(2000)、笠松町初の「登録有形文化財」として登録されました。

平成20年(2008)には、経済産業省の「近代化産業遺産」にも認定されています。



岐工記念館(岐阜工業高等学校敷地内)

杉山家住宅主屋 <国登録有形文化財>

下本町の「杉山邸」は、明治24年(1891)の濃尾大震災直後に建築された質実剛健な「町屋造り」です。笠松を拓いた「8人衆」の1人、市右衛門から数えて15代目ほどにあたる杉山銓二郎さん(味噌・しょうゆ醸造業)の邸宅でした。笠松は木曾川の水運で栄えた湊町。そこでの有力者の生活ぶりを今に伝えています。

邸宅は、長い間空き家であったため雨漏りしていましたが、平成18年(2006)、町民らの「瓦1枚1,000円」のカンパと所有者の杉山幹夫さん(現：岐阜新聞・岐阜放送会長)の多大な応援により、町屋として復活し公開されることとなりました。その年、「登録有形文化財」に登録されました。

その後、邸宅は町に寄付され、「NPO法人笠松を語り継ぐ会」がまちおこしの拠点として管理運営しています。主屋の2階では、杉山家にまつわる史料が展示されているほか、土蔵の2階では、戦前の岐阜商業学校(現在の県立岐阜商業高等学校)野球部で活躍し、戦後は同校監督として「岐商野球の礎」を築いた広江嘉吉さんの常設展示場となっています。主屋ではコンサートや作品展、お茶会なども開催され、憩いの場としても活用されています。

また、地域の守り神である「屋根神さま」のご神体は、平成28年(2016)に杉山邸から南に約50mの地上に移されました。



杉山邸



屋根神さま

8.笠松町の防災・防犯

1)防災

木曾川の洪水と闘ってきた笠松の人々にとって、水害から生命財産を守ることがとても大切でした。築堤などの工事に頼るだけでなく、流域の住民は積極的に治水事業に参加し、現在でも「水防団」が組織されています。

笠松町の水防団は 6 団あり計 168 人で構成されており、岐阜市・笠松町・岐南町・各務原市の 15 の水防団の水防事務を共同処理する「木曾川右岸地帯水防事務組合」が笠松町新町にあります。

平成 28 年(2016)には円城寺地内に「笠松町水防センター」を整備し、木曾川の洪水や集中豪雨による浸水被害に備えた資器材の保管場所、防災活動の拠点場所となっています。

笠松町では、平成 6 年(1994)に「笠松町地域防災計画」を策定し、毎年、職員召集、情報伝達、通信、避難所開設、給水等の防災訓練を実施し、防災体制の確立を図っています。平成 7 年(1995)に発生した「阪神・淡路大震災」により、再度町民の防災に対する関心が強くなり、その年、全町内会に「自主防災会」が作られ、防災訓練を通して日頃の防災意識の向上に努めています。

平成 27 年度(2015 年度)には「かさまつ防災士会」を発足しました。笠松町内在住または在勤の日本防災士機構により認定された防災士資格を有する者及び学識経験を有する者で構成され、行政と連携し、防災講演会や防災授業といった防災・減災・啓発活動を行っています。令和 4 年(2022)4 月現在で 17 人の会員がいます。

また、今後、町内で発生する可能性がある地震や洪水に対して関心と知識を持ち、地震や洪水が発生した時の避難場所、避難方法などをまとめた、「地震ハザードマップ」「洪水ハザードマップ」を平成 20 年(2008)に作成し全戸に配布、その後「洪水ハザードマップ」は令和 2 年(2020)に更新し、再配布しました。

建築物の地震に対する安全性の向上や地震時に迅速な自力避難が困難である高齢者などの防災意識の向上を図り、地震に強いまちづくりを目的に、建築物の耐震診断と木造住宅の耐震補強工事、木造住宅に耐震シェルター及び防災ベッドを設置する費用を助成する事業を実施しています。

緊急時の情報をいち早く伝えるため、平成 7 年(1995)に「防災行政無線」を開局し、



いざというときに備え行われる水防演習

各家庭に無償で個別受信機を配布しています。さらに平成 28 年度(2016 年度)には屋外スピーカーを増設し 11 か所から 33 か所になりました。防災行政無線は緊急時の放送以外にも、行政のお知らせなどを速やかに伝えるため、毎日の定時放送で広報活動の充実も図っています。

防災行政無線放送の定時放送		
朝 午前 6 時 50 分	昼 午後 0 時 30 分	夜 午後 7 時 50 分
時報 正午、午後 5 時の 2 回		

この他にも、災害時の緊急かつ重要な情報をいち早く伝達できるようにスマートフォンアプリケーションの「LINE (ライン)」や、携帯電話各社と連携した「緊急速報(エリアメール)」を活用し、総合的防災対策の強化に努めています。

火災、救急、救助、その他災害から住民の生命、身体、財産を守るため、岐南町・笠松町の羽島郡 2 町で「羽島郡広域連合」を組織して消防業務を行っています。

西消防署は笠松町美笠通 3 丁目、東消防署は岐南町八剣 7 丁目にあります。

自営業者やサラリーマンなど様々な職業の人からなる笠松町消防団は、3 分団計 120 人で組織され、「わがまちを災害から守る」という使命感のもといざという火災や災害時に消防活動などを行っています。

また、平成 30 年度(2018 年度)より機能別消防団制度を導入しました。機能別消防団とは、能力や事情に応じて特定の活動のみに参加する消防団員のことで、OB 消防団員など幅広い層から消防団員を確保し、地域防災体制の充実強化を図ることを目的に導入したもので、火災時の初期消火や後方支援、大規模災害時における避難支援など、様々な場面での活躍が期待されます。



出初め式の一斉放水(笠松みなと公園にて)

各種防災対策の充実強化を図る一環として、平成 8 年(1996)に、加茂郡白川町と「災害時における相互応援盟約」を締結しました。両町ではこの盟約締結を機に、「山の日のつどい」や両町のイベントでの交流事業などを進めながら友好を深め、有事における相互応援協力体制を築いています。

また、平成 26 年(2014)に、埼玉県比企郡滑川町と「災害時相互応援協定」を締結しました。この協定は、広域災害などに対応できる自治体間の応援体制を整え、防災体制の強

化を図るもので、初の県外の町との協定となりました。

笠松町の大きな自然災害には、次のようなものがあります。

のうびだいしんさい
濃尾大震災

明治 24 年(1891)10 月 28 日
午前 6 時 37 分、根尾谷(現在の
もとす
本巢市根尾)を震源とするマグニ
チュード8.0 の内陸直下型地震が
ないうちよっかがた
発生しました。

死者は全国で 7,273 人、全壊・
しょうしつ
焼失家屋 142,000 戸という大
きな被害を受けました。

笠松町では、地震に続いて発
生した火災によりはんかがい
町並みを焼き尽くしました。朝
食前後の時間帯であったことも
あり、建物の倒壊と火災による
とうかい
死傷者は総人口の約 8%、全半
壊の被害が全戸に及ぶだいさんじ
大惨事となりました。

31 日までの間に烈震 4 回、強
震 40 回、弱震 660 回、微震 1
回、鳴動 15 回、合計 720 回を
数え、その後も余震は絶えませんでした。しかし一方では、この地震によって、地震研
究、震災対策が大きく発展する契機にもなりました。また、各地にできた新聞社は競っ
て震災情報を伝え、全国民の目を震災地に向けました。そして被害の大きさを知った国
民は、医療ボランティアとして駆けつけ、援助物資を寄せるなど、災害への連帯の輪が
大きく広がった地震でもありました。



震災後の本町付近



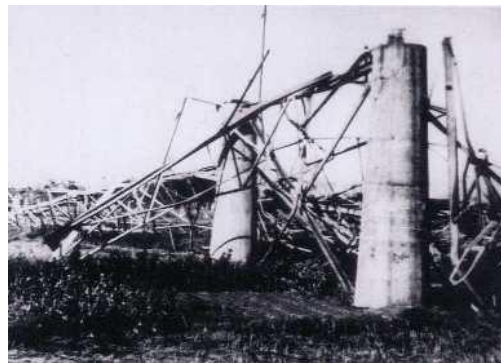
地震後の火災で、一面焼き尽くされました

笠松町の被害の状況

地域名	総人口	死者数		負傷者 数	総戸数	被害住家戸数		
		圧死	焼死			全壊	半壊	全焼
笠松	4,732	134	67	408	1,005	593	25	387
松枝	2,997	73	-	134	618	515	5	98
下羽栗	2,476	14	-	11	505	410	95	-
計	10,205	221	67	553	2,128	1,518	125	485

伊勢湾台風

昭和 34 年(1959)9 月 26 日、超大型に発達した台風 15 号「伊勢湾台風」は、和歌山県の潮岬の西から上陸し、東海地方を縦断して翌日、新潟県直江津付近から海上へ通過しました。岐阜県内で死者 104 人(全国合計では死者 4,697 人)、家屋の被害は 23 万戸にのぼりました。



倒壊した鉄塔

台風の影響が岐阜県西部を縦断したため、暴風とともに激しい雨が降り続き、県内各地では河川が増水しました。長良川水系の急激な増水により境川なども増水し、笠松町一帯に溢れ出し、家屋の浸水を避けることができませんでした。町内の被災状況は、床上浸水が 533 世帯、床下浸水が 361 世帯、家屋の倒壊で 1 人の方が亡くなっています。

9. 12 豪雨災害

昭和 51 年(1976)9 月、東海地方を襲った台風 17 号の影響で、大量の雨が降り、長良川の水量は一気に増え、9 月 12 日に長良川堤防が決壊しました。濁流にのまれた安八郡安八町と墨俣町(現在の大垣市)の全域で床上浸水の被害を受ける「9.12 豪雨災害」が起きました。



氾濫した西金池町付近

笠松町では、境川と三ツ目排水路が氾濫して、特に笠松地域の松栄町や西金池町を中心に浸水し、床上浸水 132 世帯、床下浸水 742 世帯が被害を受けました。

2)防犯

町では、安全で住みよい町の実現のため、町内で発生する犯罪や事故を未然に防止し、地域の安全確保と犯罪抑止機能の向上を目的に、平成 29 年(2017)4 月から青色回転灯自主防犯パトロール(青パト)による防犯活動に取り組み始めました。防犯体制の強化を図るため、地域安全指導員をはじめとする各団体の皆さんにもご協力をいただき、地域が一体となって各学校周辺を中心に町内全域をパトロールしています。

9. 笠松町のまちづくり

笠松町では、令和3年度(2021年度)から10年間の町民と行政のまちづくりの行動指針となる「笠松町第6次総合計画」を策定しました。これは新型コロナウイルス感染症の拡大をはじめとした社会情勢^{じょうせい}の変化や、環境の変化に的確に対応し、計画的な行政運営を図るため、今後のまちづくりの指針として策定したものです。住民と行政がそれぞれの役割を担い、互いに協力し合うことで、笠松町の持つ人や地域、歴史、文化や、清流木曾川に代表される恵まれた自然などの様々な“魅力”が一層の輝きを放つことができることを目指し、「まちの魅力を活かしたにぎわいと癒しのまちづくり」を理念に、まちづくりを進めています。

まちづくりを担う笠松町職員は、令和4年(2022)4月1日現在で126人が勤務しています。町政を担う町長は選挙で選ばれ、現在の任期は令和元年(2019)6月29日から4年です。



笠松町役場庁舎

町議会

町議会は議決機関と呼ばれ、議案などの審議を通して、町政の重要なことがらを決めます。そして、町長をはじめとする執行機関(役場)は、議会の決定に沿って事務事業を進めることになります。

町民の意見や知恵が積極的に反映されるように、町議会議員は選挙で選ばれています。現在の議員定数は10人で、任期は令和2年(2020)4月1日から4年です。

議会には定例会と臨時会があり、定例会は年4回(3月・6月・9月・12月)、臨時会は必要に応じて開かれます。



笠松町議会議場

笠松町役場部課の担当と事務内容

部	課名	担当名	事務の内容
総務部	総務課	庶務・行政・秘書	職員人事、情報公開、個人情報保護、行政一般、選挙、町内会、秘書など
		契約管財	契約、財産管理など
		危機管理対策	消防、防災、防災行政無線、防犯など
	税務課	資産税	固定資産税
		住民税	町民税、軽自動車税、納税・所得証明、臨時運行許可など
収納管理		町税などの徴収	
企画環境経済部	企画課	財政・行財政改革推進対策	財政、行財政改革推進など
		企画調整	広域行政、総合計画、統計、国際交流、公共施設巡回町民バス、情報化推進など
		プロモーション推進	広報、公聴、まちの駅、ふるさと納税、観光、イベント、産官学連携など
	環境経済課	生活環境	環境保全、公害、火葬場、墓地、ごみ、畜犬登録など
住民福祉部	住民課	産業振興	農業、商工業、消費生活、産業支援など
		戸籍住民	戸籍、住民票、印鑑証明など
		国民健康保険	国民健康保険
	福祉子ども課	年金・高齢者医療	国民年金、後期高齢者医療、福祉医療など
		民生	高齢者福祉、障がい者福祉など
		児童福祉・少子対策	児童手当、保育所入退所、放課後児童クラブ、少子対策など
	健康介護課	健康	各種健診、がん検診、予防接種など
		子育て世代包括支援	子育てに関する相談窓口、母子保健など
		保健予防	高齢者の保健事業、介護予防など
建設部	建設課	介護	介護保険
		管理	道路占用、道路用地の買収、道路境界確定、地籍調査、交通安全など
		地域再生推進	土地の有効利用に関する調査、空家対策など
		土木	道路の建設、河川の維持管理など
水道部	水道課	都市計画	都市計画、建築確認、自転車駐車場、屋外広告物、公園の維持管理など
		庶務	上下水道の経理など
		工務	上下水道施設の建設、維持管理など
教育文化部	教育文化課	学校教育	道徳教育、学校施設の管理など
		社会教育	生涯学習、青少年育成、地域の文化活動、スポーツ振興、体育施設の管理など
会計課	会計	現金の出納、納税、手数料の納付など	
議会事務局	庶務	町議会に関する事務	

主な出先機関など

施設の名称	所在地	事務の内容
福祉健康センター・子育て世代包括支援センター	長池	住民検診、健康相談、子育て世代の相談業務など
福祉会館	東陽町	施設利用申込み、いきいきクラブ、遺族会その他福祉関係団体の事務など
笠松中央公民館	常盤町	公民館施設利用申込み、体育施設利用申込み、生涯学習、スポーツ振興など
松枝公民館 松枝支所	長池	施設利用申込み、諸証明の受付など
総合会館 下羽栗支所	中野	施設利用申込み、諸証明の受付など
歴史未来館	下本町	歴史、民俗、自然、産業、科学に関する資料の展示、保管など
学校給食センター	円城寺	学校給食
こども館「かさくら」	桜町	子育て支援、子どもの居場所など
ふらっと笠松	西金池町 (笠松駅構内)	笠松町の情報発信、地場産品・バス券の販売、自転車駐車場の受付など
羽島郡二町教育委員会	岐南町八剣	学校教育、社会教育など

関係機関

名称	事務の内容
笠松町選挙管理委員会	選挙の執行・管理
笠松町農業委員会	農地の利用関係の調整、技術の改良・普及の指導
社会福祉法人 笠松町地域振興公社	第一保育所、松枝保育所、下羽栗保育所、親子サポート教室（にじいろ）、こども館の運営
社会福祉法人 笠松町社会福祉協議会	町から委託された地域包括支援センター事業の実施など 笠松町心身障害者小規模授産所の運営

各種実行委員会

名称	事務の内容
かさまつまちづくりイベント実行委員会	春まつり、川まつり、リバーサイドカーニバル
笠松町民運動会実行委員会	町民大運動会
笠松町美術展実行委員会	美術展

1) 快適なまちづくりのために

① 資源とごみ

笠松町の可燃ごみは、岐阜市・羽島市・岐南町と笠松町の2市2町で構成する岐阜羽島衛生施設組合の処理施設（岐阜市境川地内）で焼却していました。

この焼却施設は昭和40年(1965)に稼働を開始しましたが、平成3年(1991)の改築時に、地域住民と「現地以外の場所で、平成23年(2011)4月1日より新施設を稼働する」という覚書を締結しました。これを受け、岐阜羽島衛生施設組合では次期ごみ焼却施設の建設計画地を選定し、建設に向けた交渉を行いました。合意には至らず、稼働期間を5年間延長していた境川地内の処理施設も平成28年(2016)3月末に稼働を停止しました。そして、組合を構成する市町は、新施設完成まで独自にごみ処理を行うことになりました。

平成28年(2016)4月からの可燃ごみは、笠松町と岐南町のごみ収集運搬委託業者が建設した積替施設（岐南町平成6丁目地内）と運搬車両・コンテナの保管施設（笠松町円城寺地内）を利用して、小型収集車から大型コンテナ車に積み替えた後、三重県伊賀市と長野県佐久市にある民間施設に運び焼却処理をしています。また、可燃粗大ごみは、笠松町単独で委託業者から静岡県富士宮市にある民間施設に運び焼却処理を行っています。

平成31年(2019)4月からは、事業系可燃ごみの適正処理や減量化を推進するため、事業系可燃ごみの有料化を実施し、令和3年(2021)10月より家庭系可燃ごみの排出方法の変更及び有料化、事業系粗大ごみの有料化を実施し、ごみの減量化にも取り組んでいます。

ごみの減量化とともに、資源循環型の社会システムの構築を目的として、「未来の環境を守る資源循環型のまち」を理念に掲げ、リサイクル（ごみの資源化）と共に2R「リデュース（ごみの発生抑制）、リユース（物の再使用）」に取り組んでいます。

(1) 資源集団回収事業奨励金制度

廃棄物のうち資源として再利用できるものを集団で回収する団体（町内会・PTAなど）に対して、資源回収を奨励し、ごみの減量化、資源の有効利用及びごみ問題に対する町民意識の高揚を図ることを目的として奨励金を交付しています。

(2) 生ごみ減量化推進補助金制度

一般家庭から出る生ごみの減量化及び資源の再利用化を図るため、生ごみ処理機・ダンボールコンポストなどの購入に対し、補助金を交付しています。

(3) 廃棄物減量等推進員会議

ごみ処理の現状や分別基準の情報を共有するため、廃棄物減量等推進員会議を開催しています。

(4) 資源ごみ分別回収等推進交付金制度

町内会による資源ごみの分別回収活動を奨励し、違反ごみの削減、可燃ごみの減量化及び資源の有効利用等ごみ問題に対する町民意識の高揚を図ることを目的として、資源ごみの分別回収事業を実施する町内会に対して交付金を交付しています。

②下水道

笠松町の水道水<上水道>は、水源地 (P4 参照)で汲み上げられた地下水です。この上水道は、町内全域の 99%が利用し、残りは井戸水を汲み上げています。

【汚水】家庭の台所・風呂・洗面所などから出る生活排水や事業所から出る汚水は、下水道管をとおり、各務原市の「岐阜県各務原浄化センター」に運ばれていき、きれいな水にした後、木曾川に放流しています。この浄化センターは、木曾川右岸流域の 4 市 6 町(岐阜市・美濃加茂市・各務原市・可児市・岐南町・坂祝町・川辺町・八百津町・御嵩町と笠松町)の汚水を処理する施設で、公益財団法人岐阜県浄水事業公社が運転管理を担っており、令和 3 年度(2021 年度)には 30 周年を迎えました。



下水道は、整備することによって利益を受ける人が特定されます。そのため、下水道の恩恵を受ける人に建設費の一部を負担していただくのが「受益者負担金制度」です。

笠松町では、平成 3 年(1991)の町議会で下水道加入に伴う受益者負担金を徴収せず事業を推進することになりました。これは、町内全域での計画であること、また下水道は公共性の高い社会資本であり、快適で健やかな生活を促進するため徴収しないことになったもので、岐阜県内で「受益者負担金」を徴収していないのは、笠松町だけです。

また、笠松町では下水道の利用を促進するための助成制度があります。これは、下水道の利用できる日から 3 年以内に下水道へ接続された方に助成金を交付する制度です。助成金の額は 1 年以内は 7 万円、2 年以内は 3 万円、3 年以内は 1 万円です。なお、笠松町の下水道の水洗化率は令和 4 年(2022)3 月 31 日現在、87.8%です。

(※水洗化率 = 水洗化人口/処理人口)

【雨水】汚水とは別に側溝や水路などから主要な排水路に集められ、境川などを通り長良

川に流れていきます。

また、近年多発するゲリラ^{ごうら}豪雨などによる道路の冠水^{かんすい}や浸水被害対策として「笠松町流域関連公共下水道雨水計画」の雨水事業を継続させ、円城寺地内では、令和元年度に、一時的に雨水を溜めておく「雨水調整池」の整備が完了しました。

2)特色ある条例

①美しいまちづくり条例 <平成18年(2006)10月施行>

空き缶などの散乱^{きつえん}、喫煙^{きつえん}や飼い犬などのふん害、雑草の繁茂^{はんも}の防止を目的として制定されました。町民、事業者、土地所有者などと町が協働して、将来にわたり安全で快適な環境を保ち、清潔で美しいまちづくりを目指しています。

②笠松町道徳のまちづくり条例 <平成19年(2007)12月施行>

道徳教育の一層の振興を図り、地域、家庭及び学校が一体となって道徳的風土及び人づくりを進め、道徳心、マナー及びルールを大切にしたい生きがいと誇りのもてるまちづくりを目指して制定されました。道徳のまち笠松推進会議では、町民一人ひとりが“笠松人のこころ”を育む具体的な取り組みとして、「きれいなまち」、「支え合うまち」、「あいさつのあるまち」の3つに取り組んでいます。自分にできることを自らの意志で少しずつ取り組むことが、たとえ小さな取り組みであっても笠松の風土・人づくりにつながると考えています。



道徳のまちオレンジTシャツを着て、おもてなしをする中学生

③子どもの権利^{けんり}に関する条例 <令和4年(2022)3月施行>

子どもたち自身が条例づくりに参加し、子どもの持つ4つの権利と大人の役割、子ども自身の役割を定めました。

4つの権利は、「安心して生きる権利」、「のびのびと育つ権利」、「守られる権利」、「参加する権利」です。大人の役割は子どもの個性と人格を尊重^{そんちょう}し、自主性を認めることなどで、子どもの役割は自分の権利を自覚するとともに、他人の権利も大切にすることなどです。



意見書を町に提出する子どもたち

笠松町では、すべての子どもたちが夢と希望を持って自由に生き生きと育つことのできるまちを目指しています。

3) 個性的なまちづくりの取り組み

① かさまつ応援寄附金(ふるさと納税)

平成 20 年(2008)の税制改正により「ふるさと納税制度」が開始されました。それを受け、笠松町では全国の皆さんからの応援を、教育や歴史・文化保存、福祉、まちづくりの分野で活用するため「かさまつ応援基金」を創設しました。寄附された方へのお礼の品「ふるさとかさまつ宅配便」は全国で評判を呼び、県内市町村がふるさと納税に取り組む先駆けとなりました。

平成 27 年(2015)、岐阜県立岐阜工業高等学校デザイン工学科の生徒が、お礼の品「ふるさとかさまつ宅配便」の共通マークを考案され、寄附いただいた方にお礼の品を送る際にシールを貼っています。産学官によるこの取り組みは、「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」から『ふるさと納税未来大賞』の表彰を受けました。

② ふらっと笠松

平成 20 年(2008)、名鉄笠松駅構内に「ふらっと笠松」が誕生しました。ここは、笠松町の情報を提供し、皆さんと笠松を訪れる方との憩いの場・交流の場として、「笠松」の銘菓や、災害時の応援協定を締結している白川町の特産品の販売のほか、公共施設巡回町民バスの待合所としても利用されています。



名鉄笠松駅構内の「ふらっと笠松」

③ まちの駅

平成 21 年(2009)に岐阜県初の地域ぐるみによる「まちの駅」をスタートさせました。

町民や笠松を訪れた方など誰もが気軽に立ち寄り、地域の情報などを得られる交流の場です。「個性的な町民のネットワークをつないで、オリジナリティーあふれるまちづくりを進め、町を元気にしていく」ことを目的としています。笠松らしさあふれる「まちの駅」は、「歩いて立ち寄れる」伝統の笠松の町にマッチした地域おこしです。



まちの駅 駅長会議

④かさまるくんナンバープレート

笠松町に愛着を持っていただき郷土愛を育むことと、町をPRする走る広告塔として、町マスコットキャラクターの「かさまるくん」と町の花「さくら」がデザインされた原動機付き自転車、ミニカー、小型特殊自動車など5種類のオリジナルナンバープレートを、平成25年(2013)8月15日から交付しています。



原動機付き自転車用のナンバープレート

⑤いいね・かさまつ

団塊^{だんかい}の世代の方が後期高齢者(75歳以上)に達する2025年を前に、住み慣れた町で最期まで暮らし続けることができるよう、住まい・医療・介護・介護予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム^{ほうかつ}」の構築を推進しています。

こうした体制の整備に向け、平成29年(2017)に設置された研究会「いいね・かさまつ」は、行政と町民が「地域包括ケアシステム」構築の推進について共に学び、検討する場となっています。また、岐阜工業高等学校デザイン工学科の生徒の協力により、研究会のロゴマークも制作されました。ロゴマークは、温かいまちをテーマに、ハートで「かさまつ」の文字を包み、下の大きな緑色の丸は地域を支える大人を、上の小さな丸はこれからの笠松町をつくる子どもたちを表現しています。



「いいね・かさまつ」ロゴマーク

⑥笠松町公式 SNS 開設

令和2年(2020)にLINE(ライン)、Instagram(インスタグラム)、Twitter(ツイッター)など、笠松町公式のSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)が開設されました。町公式ホームページや広報誌など、従来の情報発信媒体^{ばいたい}に加え、写真や動画を利用したより身近でリアルタイムな情報発信が可能となりました。



LINE



Instagram



Twitter



笠松町公式 LINE

⑦笠松町政策アドバイザー

笠松町の政策について専門的な見地（けんち）から助言を行う政策アドバイザーとして、令和元年（2019）、松波総合病院の松波英寿理事長が就任しました。

また、令和2年（2020）には獅子門道統四十一世・「獅子吼」主宰及び岐阜県連句協会会長などを務められている大野鶴士さんが第2号アドバイザーとして就任しました。

笠松町政における重要問題について、多角的・専門的に検討を進め、より良い政策を打ち出すため、積極的に政策アドバイザーの力を借りていきます。



大野鶴士さんの就任式の様子

⑧プロスポーツ連携事業

笠松町では、岐阜県内で活躍するプロスポーツチーム・選手との連携事業を通して、スポーツ振興に向けた取り組みを推進しています。

令和2年度（2020年度）にバドミントンダブルスのフクヒロペア（福島由紀選手・廣田彩花選手）が所属する株式会社丸杉と「ホームタウンパートナー協定」を締結し、今後、町民との親交を深めていきます。

また、令和3年度（2021年度）には、プロバスケットボールチーム「岐阜スーパース」のロゴマークを公共施設巡回町民バスの車両にデザインし、チームのPRと応援を行っていきます。



「岐阜スーパース」の選手らと町民バス新車両納車式の様子

10. 笠松町の教育

1) 学校教育のあゆみ

① 小学校のあゆみ

明治5年(1872)に全国民を対象とする教育制度「学制」が制定されると、笠松村と徳田新田・田代村が連合して、明治5年(1872)11月に「育英義校」が設立されました。当時の校舎は、東本願寺と瑞應寺ずいおうじに設けられましたが、県庁の岐阜移転にともない、庁舎が払い下げられると、その建物を校舎として使いました。

明治8年の学校	明治30年の学校	現在の小学校
育英義校 (笠松村) <small>いくえい</small>	笠松尋常高等小学校 <small>じんじょう</small>	笠松小学校
求信義校 (北及村) <small>きゅうしん</small>	松枝尋常小学校	松枝小学校
博習義校 (田代村) <small>はくしゅう</small>		
藍氷義校 (円城寺村) <small>らんびょう</small>	下羽栗尋常小学校	下羽栗小学校
敬恪義校 (下中屋村) <small>けいかく</small>		
平島義校 (平島村) <small>へいじま</small>		

設立当時の育英義校では、数名の教員が漢学・英語・算術・習学の4教科の指導にあたっていました。

明治6年(1873)には、各村に次々と小学校が設立されました。明治12年(1879)の就学状況は、笠松村で84%に達し、県全体の49.4%と比較すると、この地域住民の教育への強い熱意を感じることができます。

その後、明治30年(1897)に合併により松枝村と下羽栗村が誕生すると、3つの尋常小学校となり、現在の小学校の姿になりました。



ドキドキとワクワクの新一年生(入学式後の教室)

② 中学校のあゆみ

戦後、昭和22年(1947)に「学校教育法」が公布され、新制中学として「笠松中学校」が創立しました。同年、松枝村と柳津村の組合立「蘇西中学校」そせいが、下羽栗村と上羽栗村かみはぐりの組合立「羽栗中学校」はぐりがそれぞれ創立しました。



平成26年に完成した笠松中学校屋内運動場

昭和 25 年(1950)に、松枝村が笠松町に合併すると、門間を除いた松枝地域が笠松中学校の区域となりました。その後、門間地域も昭和 32 年(1957)から笠松中学校に通学するようになり、蘇西中学校は昭和 38 年(1963)に南部中学校と合併して「^{さかいがわ}境川中学校」となり現在に至っています。羽栗中学校は、昭和 31 年(1956)の町村合併により岐南町が誕生すると、岐南町との組合立になり、昭和 49 年(1974)、「岐南中学校」と統合し校名はなくなりました。

昭和 61 年(1986)4 月、下羽栗地域の新 1 年生が笠松中学校に入学しました。中学校区の変更に伴い、笠松町全域が笠松中学校の区域となりました。

小学校区	昭和 22 年	昭和 25 年	昭和 49 年	昭和 61 年
笠松地域	笠松中学校	笠松中学校	笠松中学校	笠松中学校 <下羽栗地域が 校区になる>
松枝地域	^{そせい} 蘇西中学校 (松枝村と柳津村)	<松枝地域が 校区になる>		
下羽栗地域	^{ほぐり} 羽栗中学校 (下羽栗村と上羽栗村)		岐南中学校 (岐南町と笠松町)	

③岐阜工業高等学校のあゆみ

美濃篇 (P38 参照)の振興のため、大正 15 年(1926)に、常盤町に「岐阜県第一工業学校」が開校しました。設置学科は^{とせきわ}染織科・機械科・土木科の 3 科で、入学資格は 12 歳以上の男子で尋常小学校卒業程度以上の者、修業年限は 5 年でした。

この高等学校に併設して、昭和 18 年(1943)に全国に先駆けた公立の「岐阜県立高等工業学校」が開校しました。

昭和 23 年(1948)、新制度により「岐阜県立岐阜工業高等学校」と名称を変更

し、3 年制の高等学校となりました。また、併設された高等工業学校は、「岐阜工業専門学校」と名称変更し、昭和 24 年(1949)に「岐阜医工科大学」が設置されると同大学の工学部に包括され、さらに、昭和 25 年(1950)に「岐阜県立大学工学部」と改称し、昭和 27 年(1952)に国立に移管されると「岐阜大学工学部」へと発展しました。

岐阜県立岐阜工業高等学校は、現在、全国でもトップクラスの大規模な工業高等学校として、航空機械工学科(2 クラス)、電子機械工学科、電気工学科、電子工学科、建設工学科、デザイン工学科、設備システム工学科、化学技術工学科の 8 学科 9 クラスを設置しています。



笠工の愛称で親しまれている岐阜工業高等学校

2)機関の共同設置による教育委員会

昭和 23 年(1948)に、教育の機会均等、教育水準の維持向上、そして地域の実情にあわせた教育の振興を図ることを目的に「教育委員会法」が公布されると、笠松町では、昭和 27 年(1952)に「笠松町教育委員会」が設置されました。しかし、小規模な町村では財政・人材などの面で理想どおり進まないところもあり、また広域にわたる人事交流、研究成果の実践化など課題もあり、昭和 44 年(1969)、当時の羽島郡(川島町・岐南町・笠松町・柳津町)の 4 町で「羽島郡教育委員会」が共同設置されました。

その後、昭和 51 年(1976)に「羽島郡四町教育委員会」と改称されましたが、平成 16 年(2004)11 月に川島町が各務原市と合併すると「羽島郡三町教育委員会」と名称変更し、平成 18 年(2006)1 月に柳津町が岐阜市と合併すると岐南町と笠松町の 2 町で構成する「はしまぐんにちょうきょういくいんかい羽島郡二町教育委員会」として新たにスタートしました。

現在、羽島郡二町教育委員会は岐南町に事務所があります。

機関の共同設置をしている教育委員会は、全国でも珍しい組織です。

3)学校教育の充実

笠松町には、3つの小学校と1つの中学校があります。「家庭や地域の信頼に応え、夢と希望を育む感動ある学校づくり」を基本方針に、確かな学力、豊かな心、健康や体力の調和を重視した「生きる力」の育成を目指すとともに、各学校の教育目標の具現ぐげんに徹した特色ある学校づくりを推進しています。

小・中学校の状況(令和4年5月1日現在)

区分	児童・生徒数	学級数	教員数
笠松小学校	231 人	12(2)	25 人
松枝小学校	532 人	21(3)	41 人
下羽栗小学校	302 人	14(2)	28 人
笠松中学校	558 人	19(3)	38 人

資料:学校基本調査 ()内は特別支援学級数の内数

笠松小学校

昭和 44 年(1969)、赤レンガタイルで彩られた新校舎が改築され、今の校舎が完成しました。この年、道徳指導の成果が認められ、県下一各種教育優秀校として表彰をされました。笠松小学校は、道徳の指導について早くから研究に取り組んできたという特色があります。



赤いレンガの校舎

子どもたちに根付いている「3つのじまん」も道徳で培った心の実践の成果と言えます。

①気持ちのよいあいさつ ②力一杯行う掃除 ③根気よく続ける生き物の世話

この「3つのじまん」は、今もなお受け継がれています。毎朝、登校すると子どもたちは、あいさつロードに並び、登校してくる子どもたち一人一人とハイタッチあいさつをします。その後、一人一鉢に水やりをし、さらにゴミ拾いや草引き、落ち葉掃きをしています。

また、地域や家庭からは、大勢のボランティアが学校を訪れて、子どもたちの登下校や授業、掃除などの活動に寄り添って、語りかけてくださっています。地域ぐるみの道徳的実践により明るく素直な子どもたちが育成されています。

松枝小学校

昭和49年(1974)に現在の校舎ができました。校舎を上空から見ると、東西の端が斜め二方向に分かれており、松の枝を模^{かたど}った形になっています。また、校舎の入り口が、アーチ形になっていたり、玄関に陶製の壁が飾られたりして、校舎が建てられた頃は、町民や教育関係者の人から、「モダンな陸の竜宮城」や「大きな翼^{つばさ}を広げたような白亜の学び舎」などと、呼ばれることがありました。



アーチ形の造形のある昇降口

平成20年度(2008年度)から、6年生が総合的な学習の時間で行っているのが「まつっこ太鼓」です。沖縄のエイサー、日本の和太鼓の練習に取り組み、その成果を運動会や町のイベントで披露^{ひろう}しています。日本の文化を学び、楽器で演奏をすることで町に貢献する機会として、熱心に取り組んでいます。



運動会で太鼓演奏を披露

下羽栗小学校

「下羽栗小学校と言えば音楽の学校、鼓笛隊の学校」と言われるぐらい、鼓笛隊に関しては、岐阜県内でも有名な学校です。

鼓笛隊の活動は、昭和40年(1965)、岐阜県において初めての国体(国民体育大会)が開かれたときにさかのぼります。笠松競馬場が「馬術競技」の会場となりました。その折に、下羽栗小学校の児童が鼓笛隊で華をそえる^{こてきたい}ことになりました。

以来、50年以上にわたって、学校の伝統として、脈々と受け継がれています。
そして現在では、5月の運動会と10月のリバーサイドカーニバルで披露しています。



運動会で鼓笛隊を披露



リバーサイドカーニバルで鼓笛隊を披露

笠松中学校

笠松中学校では、伝統である「学習」「清掃」「合唱」「ボランティア」の4本柱の質の向上を目指し、教職員と生徒が一丸となって取り組んでいます。

学習授業評価「オール5」を目指し、授業規律の向上に取り組んでいます。さらに、一人一人が主体的に課題に取り組み、「学び合い」を通じて学力を高めようとしています。

清掃時間前に黙想をし、精神を集中させてから清掃に臨みます。時間中は黙動に心がけ、私語なく活動しています。

合唱合唱コンクールでは金賞を目指して、仲間と協力しながら、朝や帰りの会で練習に取り組んでいます。また、対面式や修学旅行、卒業式など、様々な活動に合唱を位置付け、その取組を通じて合唱の上達を図っています。

ボランティア地域にも活動の場を広げています。平成28年度(2016年度)は延べ4,000人を超える生徒がボランティア活動に参加しました。地域の方からかけていただく一声が、活動意欲を高めています。

また、国際感覚をもった人材の育成を目指し、姉妹校提携先のイナラハン・ミドル・スクール（グアム・アメリカ合衆国准州）へ生徒を派遣し、現地生徒との交流を重ねています。



黙々と清掃する生徒



全校研究会の様子

学校給食センター

笠松町では、まちの宝である子どもたちの心身の健やかな成長を願って、町内の小・中学校に通う児童・生徒に学校給食を提供しています。

昭和 47 年(1972)より使用してきた学校給食センター(長池)の老朽化に伴い、平成 30 年(2018)に円城寺へ学校給食センターの移転改築を行いました。これまで以上に安心・安全でおいしい給食を提供するため、最新の学校給食衛生管理基準に適合した施設となっているほか、災害時に活用できるよう受水槽やマンホールトイレなども整備されています。



新学校給食センター（円城寺）

4) 岐阜県の工業教育の中核を担う岐阜工業高等学校

岐阜工業高等学校は、大正 15 年（1926）の創立以来、岐阜県の工業教育の中核を担ってきました。

平成 28 年（2016）には、文部科学省が専門的職業人材を育成する高校を支援する事業において「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）」の指定を受け、岐阜県の成長戦略の一つである航空宇宙産業の人材育成の拠点校として、平成 29 年（2017）には航空機製造の基礎を学ぶことができる実習施設「モノづくり教育プラザ」が、令和元年（2019）には航空機製造の一連の工程を学ぶことができる設備を備えた「モノづくり教育プラザ 2 号館」が校内に整備されました。あわせて、令和元年度（2019 年度）から文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受け、地域への優れた人材輩出を目標に、さらなる地域創生を推進する準備が整いました。

また、地域との協働や地域に根ざしたテクノロジストの育成にも力を入れており、これまでも笠松町子ども会のインリーダー生との共同作業による名鉄笠松駅前のイルミネーションや地域イベントへの出展のほか、地域の方を対象としたワークショップの開催、町が実施する事業のロゴマーク考案など、地域や産業界、行政と連携した事業を積極的に展開し、地元の人々からは「笠工（かさこう）」の愛称で親しまれています。



名鉄笠松駅を彩るイルミネーション



リバーサイドカーニバルでのミニ SL ブース

5)社会教育の充実

「生きがいを持ち、活力と連帯感のある人づくり」を基本方針に、町民が願いや目標を持ち、主体的・継続的に学び、学んだ成果を適切に生かすことができる生涯学習が推進されています。また、様々な関わりの中で学び、生きる力を身に付けた子どもの育成を目指す、家庭・地域全体の教育力の向上や、豊かな心を^{はぐく}み、夢と感動の輪を広げるスポーツ・文化活動が推進されています。



受講生による生涯学習発表会

笠松町では、昭和 23 年(1948)に公民館活動の本部が置かれると、実生活に即した教育や学術文化に関する各種の事業が積極的に進められ、町民の趣味・娯楽的なものをサークル活動に位置づけ、公民館は文化的・社会的な生活の向上の場となりました。

昭和 49 年(1974)、常盤町に気軽に幅広い利用ができる「笠松中央公民館」が完成しました。そのほか笠松町内には、社会教育・社会体育施設が充実しており、木曾川の河川敷を活用したグラウンドがあることが特徴です。

昭和 40 年(1965)の第 20 回国民体育大会「岐阜国体」では、笠松町で馬術競技とバスケットボールの二種目が開催されました。また、平成 24 年(2012)の第 67 回国民体育大会「ぎふ清流国体」では、デモンストレーションとしてのスポーツ行事グラウンド・ゴルフが笠松みなと公園一帯で開催されました。

笠松町の社会教育・社会体育施設

社会教育施設	スポーツ施設	運動場	文化施設
笠松中央公民館	町民体育館	勤労青少年運動場	歴史未来館
松枝公民館	スポーツ交流館	緑地公園内運動場	総合会館
下羽栗会館	町民運動場	緑地公園内テニスコート	
	南体育館	米野運動場	
		江川運動場	
		運動公園内運動場	
		多目的運動場	

笠松町に残る貴重な資料を収集・保存し、後世へ継承するため、平成7年(1995)に、笠松小学校内に「歴史民俗資料室」を開設しました。

平成10年(1998)に下本町^{しもほん}に移り「歴史民俗資料館」となり、その後、平成27年(2015)6月6日に建物をリニューアルし、「歴史未来館」として開館しました。従来の歴史資料の展示に加え、航空宇宙を中心とした科学関連の情報を展示しています。常設展示のほか、さまざまな企画展も開催しています。

平成30年(2018)6月9日には、館内の大幅な展示替えを経てリニューアルオープンし、1階は笠松の歴史や文化、2階では航空宇宙関係の資料が展示されているほか、リニューアルを機に町指定文化財の円空仏2体(P18 参照)が常設展示されるようになりました。



歴史未来館

6)近隣の教育・研究機関との連携

平成29年(2017)、岐阜大学と笠松町は、連携に関する協定を締結しました。

この協定は、岐阜大学と笠松町が多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的、発展的に連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成と発展、未来を担う人材育成に寄与することを目的とするものです。これにより、「道德のまちづくり」「安心安全なまちづくり」などの分野において、岐阜大学が有する専門的で豊富な知識や人材の活用が図られ、地域社会の発展が期待されます。

また、令和元年(2019)には、岐阜聖徳学園大学・岐阜聖徳学園大学短期大学部と包括的連携の協定を締結しました。

この協定により、多様な分野で包括的な連携と協力関係を築き、地域の課題に対応することで、活力ある地域社会の形成・発展に寄与し、また未来を担う人材育成などを通じてまちづくり、地域社会の活性化などに取り組んでいきます。



岐阜大学との締結式の様子

11.笠松競馬

1)岐阜県唯一の競馬場

笠松競馬場の誕生は、昭和 5 年(1930)頃、「笠松競馬倶楽部」を設立し、競馬場設置を企画したことに端を発しています。中津競馬場(中津川市)から笠松への移転運動により、昭和 9 年(1934)、東海一を誇る笠松競馬場が誕生しました。



ゴールを目指して疾走する競走馬

太平洋戦争で昭和 18 年(1943)に競馬は中止されましたが、昭和 21 年(1946)に競馬が復活しました。翌 22 年(1947)に「競馬法」が公布され、戦後の公営競馬事業の基本が定められ、競馬の収益は、窮迫していた政府や地方自治体の財源に寄与し、国民の健全娯楽となったのです。

昭和 45 年(1970)、岐阜県・笠松町・岐南町が、競馬事務を共同処理するため「岐阜県地方競馬組合」を設立しました。

競馬は、かつて貴族の娯楽として発展しました。競走馬を先導する白馬と誘導者は一幅の絵画を見るようなロマンに溢れています。

2)笠松競馬場の施設

笠松競馬場の敷地面積は、298,000 m²。そのうち自己所有地は 5,700 m²で、厩舎面積は 113,000 m²です。

本馬場は右回りで、1 周が 1,100m、幅員 20m、高低差 1.92m。走路には珪砂が 10cm の厚さで敷きつめられ、約 450 頭の競走馬が管理されています。



笠松競馬場配置図

観覧スタンドの席数は 3,300 席で「特別観覧席」「ユーホール」「ドリームルーム」など総収容人員は 16,000 人。

平成 28 年度(2016 年度)には場内に大型ビジョンが完成し、愛称を募集した結果、笠松町の自然を代表する清流木曾川をイメージし、誰もが親しんでいただけるようにと思い、が込められた「清流ビジョン」に決定しました。

場外施設としては、岐南町薬師寺に「早朝前売発売所」、恵那市には場外馬券発売所「シアター恵那」があります。平成 26 年(2014)10 月から、地方競馬と中央競馬のさらなる連携協調の一環として、JRA(日本中央競馬会)の勝馬投票券が発売され、JRA で開催される全てのレースが、笠松競馬場 (J-PLACE 笠松) とシアター恵那 (J-PLACE 恵那) で購入することができます。

3)名馬 名手の里 ドリームスタジアム 笠松けいば

笠松競馬は、全国的にも有名で「名馬 名手の里 ドリームスタジアム 笠松けいば」と呼ばれています。

笠松競馬を一躍有名にしたのは、芦毛の怪物と親しまれた名馬「オグリキャップ」です。

オグリキャップは昭和 62 年(1987)にデビューし、笠松では 12 戦 10 勝の成績を残し、翌年 1 月に中央競馬(JRA)に移籍。生涯成績 32 戦 22 勝(うち G I レース 4 勝)を挙げ引退しました。

競馬場内には、功績を讃えたブロンズ像が建てられています。引退後は種牡馬となり、平成 22 年(2010)に亡くなると、ブロンズ像の台座には、「オグリキャップ号たてがみ展示記念碑」が新設されました。



オグリキャップのブロンズ像

オグリキャップの妹馬、オグリローマンは笠松競馬で平成 5 年(1993)デビューし 7 戦 6 勝。翌年、中央競馬に移籍し「桜花賞」(G I レース)を獲得しました。母馬はホワイトナルビーで、オグリキャップと同じです。

平成 6 年(1994)にデビューし 10 戦無敗で笠松競馬所属のまま、中央競馬の「4 歳牝馬特別」(G II レース)に勝ったライデンリーダーもいました。

近年ではラブミーチャンが活躍し、平成 21 年(2009)の「全日本 2 歳優駿」(Jpn I)で優勝し、その年に 2 歳馬としては史上初となる「NAR グランプリ年度代表馬」となり、平成 24 年(2012)にも 2 度目の「NAR グランプリ年度代表馬」に輝きました。

馬だけではなく優秀な騎手も数多く輩出しています。笠松に所属していた安藤勝己さん、柴山雄一さん、安藤光彰さんが中央競馬に移籍しました。

安藤勝己さんは、昭和 53 年(1978)から 18 年連続リーディングジョッキーとなり、競馬ファンからは「アンカツ」の愛称で親しまれ、「カラスが鳴かない日があっても、アンカツが勝たない日はない」ともいわれました。安藤さんの活躍により、地方競馬と中央競馬の交流も積極的に始まりました。



レース後の競走馬

巻末資料

町章

<昭和40年(1965)4月1日制定>



カサと松葉模様で町名を斬新にえがき、円は親和協調を、円内の鋭角は町の躍進と栄光の道を力強く表現したものです。

笠松町民憲章

<昭和54年(1979)10月16日制定>

木曾の清流にはぐくまれ、木曾の^{ほんりゅう}奔流に耐えて、力強く生きぬいた誇り高いわたしたち笠松町民は、豊かな明るい生活をめざしてこの憲章を定めます。

1. いつも学習に励み 生活や文化を高めましょう
1. お互いが助け合う心を養い 幸せを求めましょう
1. みんなの健康安全と 家族のだんらんに心がけましょう
1. 自然を愛し 清潔で美しい環境をつくりましょう
1. 社会の恩恵に感謝し 働くことに生きがいを見つけましょう

非核平和都市宣言

笠松町では、すべての国の核兵器の廃絶と世界の恒久平和を願い、「非核平和都市宣言」を行いました。

宣 誓 文

清流木曾川に代表される美しいふるさとをもつわたくしたち。自由と平和をとうとび、活力に満ちた住みよい笠松町の形成を目指すわたくしたちは、地球環境と生態系の破壊をもたらす核兵器の脅威が今もなお続いていることを深く憂慮するものである。

笠松町議会は、被爆五十周年にあたり、すべての核兵器と戦争をなくすことを訴え、世界の人々と共に真の恒久平和が達成されることを願い、ここに「非核平和都市」を宣言する。

平成7年(1995)12月22日

笠 松 町 議 会

町の木

「^{まつ}松」 <昭和 49 年(1974)11 月 12 日指定>

「明るい郷土に緑を」とふるさとの木を募集し、その応募の中から
最多数で「松」が選ばれました。



町の花

「さくら」 <平成 21 年(2009)11 月 1 日制定>

町生誕 120 年を記念して、町民に広く愛される「さくら」が町の花
に決まりました。



町マスコット キャラクター

「かさまるくん」と「かさまるちゃん」

町生誕 120 年記念事業の一環として、町のマスコットキャラクター
が誕生しました。

誕生日 平成 21 年(2009)8 月 15 日



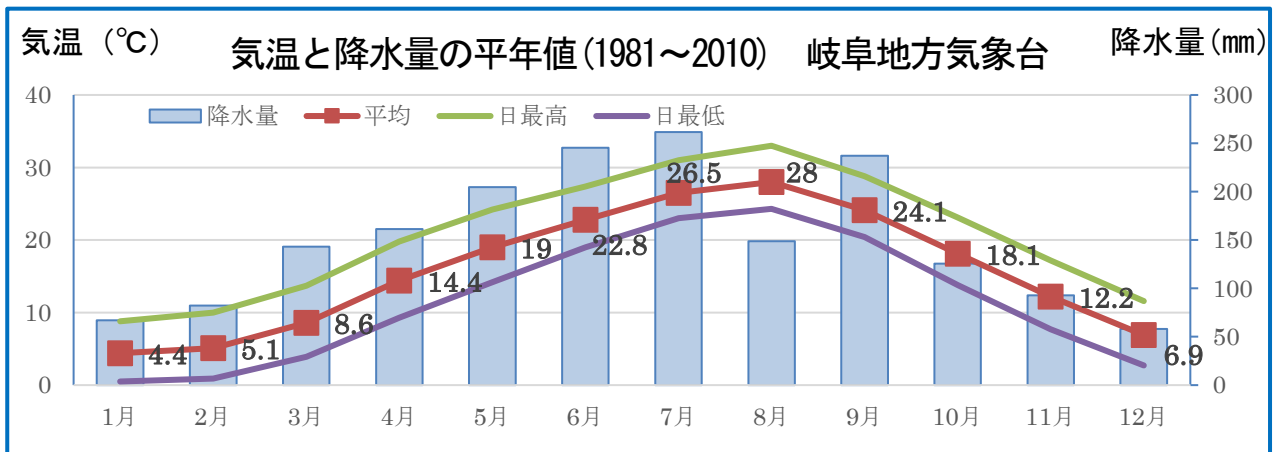
笠松町の気候

岐阜県は、海拔 0mの平野から 3,000mを超える飛騨山脈など標高の差が激しい地形ですが、笠松町は平野部に位置するため、年間を通じて温暖な気候です。

笠松町の気候は太平洋側気候で、夏は高温多湿で、日中は 25～35 度となり、時として 40 度近くになることがあります。冬は少雨で乾燥する日も多く、西にそびえる伊吹山から吹き下ろす「伊吹おろし」と呼ばれる西風が吹き、時折、雪を運び一面の銀世界をつくり出します。春と秋は温和な気候で過ごしやすく、四季を感じるすることができます。

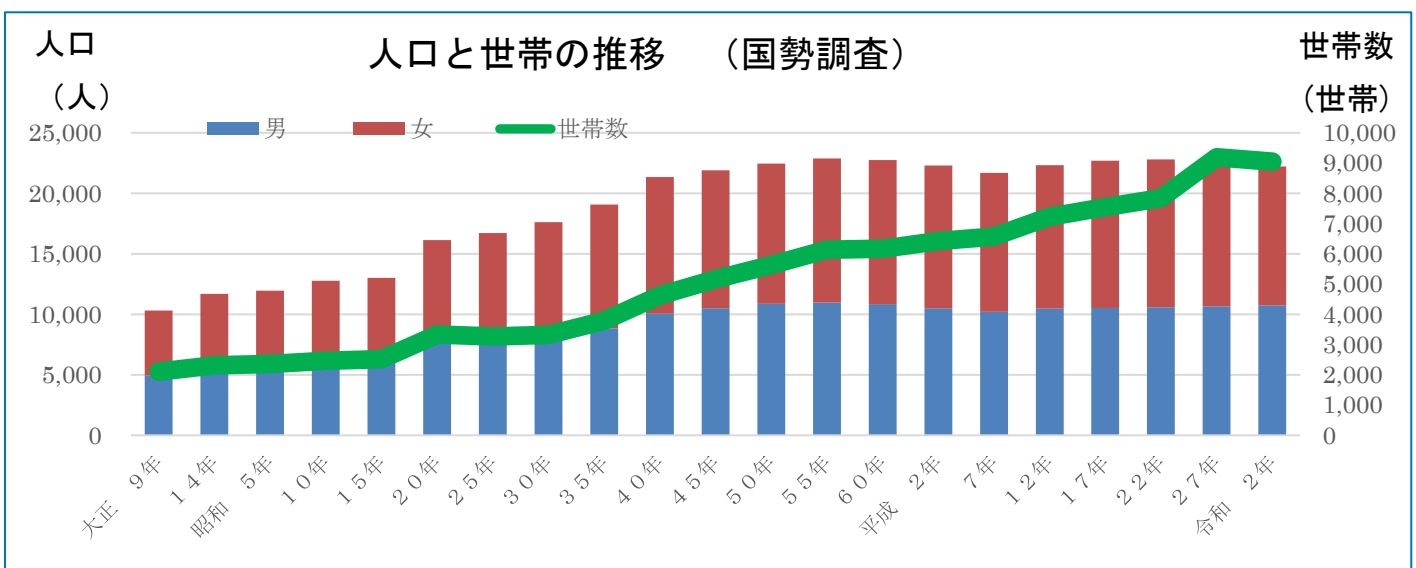
令和 2 年の気象データ(岐阜地方気象台)

気温	最高	39.2°C(8月17日)
	最低	-2.9°C(2月7日)
	平均	17.0°C
雨量		2,088.5mm



笠松町の人口

令和 4 年(2022)1 月 1 日現在の人口は 21,985 人(男 10,607 人、女 11,378 人)で、世帯数は 9,189 世帯です。また、住民基本台帳人口のうち、国籍別では 中国が最も多く、次いでベトナム、フィリピンの順となっています。



資料 笠松町史年表

西暦	和暦	事項
686~700	持統天皇朱鳥	蓮台寺が建立される
713	和銅 6	この頃、尾張国・葉栗郡の国郡名が決まる
752	天平 勝宝 4	東大寺領葉栗荘が成立する
775	宝亀 6	美濃・尾張・伊勢の三か国が風水害の大被害をうける
865	貞観 7	菅野弟門が尾張介になる
866	8	広野川事件が起こる
1156~1159	保元~平治	この頃、松枝保(荘)が成立する
1189	建久元	この頃、松枝荘が一条能保(源頼朝の妹婿)の所領となる
1192	3	上門真荘・藤掛荘が長講堂領になる。この頃鎌倉街道ができる
1220	承久 3	この頃、田代・喬島・揚津の御厨が成立する
1225	嘉禄元	この頃、浄土真宗が笠松の地に広がる
1235	嘉禎元	河野九門徒木瀬の草庵に親鸞聖人を迎える
1238	4	将軍源頼経が鎌倉街道を上洛する
1432	永享 4	将軍足利義教が鎌倉街道を上洛する
1470	文明 2	蓮如が木瀬に草庵を再建する 蓮如が河野六坊所蔵親鸞上人絵伝の裏書きをする
1501	文亀元	森可行(泰司)蓮台城に住む
1553	天文 22	富田村聖徳寺にて道三・信長が会見する
1565	永禄 8	森可成が蓮台城から烏峰城(可見市兼山町)に移る
1568	11	信長、足利義昭を立政寺に迎える 信長加納市場に楽座の制札をかかげる
1582	天正 10	森蘭丸・坊丸・力丸が本能寺の変で戦死する
1584	12	豊臣秀吉が円城寺に筏支配に関する禁制を発給する
1586	14	木曾川大洪水により河道が現在位置に変わる 池田輝政が円城寺市場を保護する
1589	17	この頃までに、当地域が尾張国から美濃国に編入され、羽栗郡となる
1593	文禄 2	八人衆が野方を開拓する
1600	慶長 5	米野の戦いが起こる
1617	元和 3	笠町に往来人馬問屋が設けられる
1650	慶安 3	笠町に休憩所が設けられる
1662	寛文 2	名取美濃郡代が徳野陣屋を羽栗郡笠町に移す 笠町を笠松村と改称する
1663	3	笠松御貯糶が設けられる
1664	4	笠松の柳原でキリシタンが処刑される
1676	延宝 4	検地によって笠松村が成立する
1697	元禄 10	笠松の刑場(大白塚)でキリシタンが処刑される
1699	12	辻六郎左衛門守参が笠松陣屋に着任、享保の改革を実施する
1746	延享 4	逆川が締切られる
1767	明和 4	掛廻堤の築堤を願い出る
1784	天明 4	畑繫堤の築堤を願い出る
1788	8	魚(肴)問屋の開業が許される
1798	寛政 10	大洪水があり、笠松地域の被害が大きい
1799	11	この頃、笠松村年寄は、惣年寄と称し苗字帯刀を認められる
1803	享和 3	笠松三郷に日掛銭の仕方を命ずる
1804	文化元	村の有力者を、水防役にとりたてる 往来人馬問屋を、笠松村の庄屋が兼ねることになる
1813	文化 10	笠松村薪炭問屋の開業が認められる
1814	11	詩文や書画に優れていた山田訥齋が生まれる
1830	天保年間	この頃、美濃機留縞の生産が盛んになる 飢饉がひどくなり、有力農民が施粥などの救済をする
1831	2	高島久右衛門が水防役に命ぜられる この頃、小見山又吉・赤塚治左衛門も水防役に命ぜられる
1833	4	笠松村の大火
1834	5	笠松村で米会所が設立される 角田錦江が私塾“喬木塾”を開く

西暦	和暦	事項
1836	7	新掛廻堤の築堤が決定する
1838	天保 9	笠松新囲蔵が新設される 真宗西派笠松別院が創建される
1841	12	笠松村などの商人が物価の値下げを報告する
1859	安政 6	羽栗郡円城寺村棧留縞織屋、住吉屋岐阜出店の代金不払いにつき訴える
1860	幕末	この頃より、笠松祭りの奉芸に大名行列を行う
1866	慶応 2	生糸並蚕種改所が設けられる
1868	明治元	笠松裁判所および笠松県が設置される 笠松県御用会所に目安箱を置く 笠松県民心引立方御救助掛が任命される 木曾川大洪水
1870	3	笠松に仮種痘所設置する
1871	4	元笠松県庁舎を岐阜県庁舎とする
1872	5	笠松の戸籍簿が完成する 郵便取扱所を笠松に設置する 笠松に陸運会社が現れる 育英義校(笠松村・徳田村・田代村)が設置される
1873	6	柳原が田代村から分離し、笠松村に合併する 敬恪義校(米野村・平島村など)が設置される 岐阜県庁が移転し、元笠松陣屋が払下げられ、育英義校の校舎に充てられる 求信義校(北及村)、藍氷義校(円城寺村)、博習義校(田代村)が設置される 笠松取締局が設置される
1875	8	笠松郵便取扱所が、三等郵便局に昇格する 敬恪義校が分離し、平島学校(米野村・平島村)が設置される
1877	10	岐阜警察署笠松分署と改称される
1878	11	笠松に天皇が行幸する
1880	13	大阪第二百二十六国立銀行笠松が支店開設する
1881	14	美濃縞会社が笠松に設立する 笠松銀行が創立される 笠松以東木曾川堤防組合水利土功会結成する
1884	17	戸長役場が設置される
1885	18	木曾川橋架橋の要望書が出される
1886	19	笠松でコレラ大流行
1889	22	笠松町が誕生する(市町村制施行) 町長：平野九右衛門(～23)
1890	23	町長：田島正三郎(～25) 御真影を笠松尋常高等小学校へ下賜
1891	24	濃尾地震により、甚大な被害を受ける
1892	25	町長：加藤助市(～26) 笠松の演説会場で騒乱が起こる
1893	26	町長：角田節次郎(～27) 笠松銀行が開業する 岐阜区裁判所笠松出張所が開庁される
1895	28	町長：伊藤代造(～44)
1896	29	濃厚銀行笠松支店が開設される 未曾有の大洪水、稀有の大暴風により被害を受ける
1897	30	笠松に自転車が入ってきた 松枝村・下羽栗村ができる(合併) 松枝村長：尾藤権右衛門(～42) 下羽栗村長：服部計太郎(～大正 2) 羽島郡役所設置される 美濃縞が県の重要物点に指定される
1898	31	松枝輪中水害予防組合結成される
1899	32	笠松以東水害予防組合結成される
1902	35	笠松町消防組合が設置される
1903	36	松枝農業補修学校が小学校に附設される
1904	37	十六銀行笠松支店開設される
1906	39	笠松町役場庁舎を県町より司町に移転、改築する
1907	40	笠松に電話が開通する

西暦	和暦	事項
1908	41	笠松小学校で工女の夜学教育を開始する
1909	明治 42	松枝村長：広瀬弥十郎(～大正 2)
1910	43	木曾川橋ができ、渡橋式が行われる 松枝村の一部 柳原を合併する
1911	44	笠松に電燈がつく
1912	大正元	町長：巖田郁郎(～12) 笠松銀行が名古屋銀行と合併して支店となる
1913	2	松枝村長：後藤利七(～昭和 4) 笠松町青年団が成立する
1914	3	美濃電気軌道により、新岐阜～笠松間に鉄道が開通される
1915	4	下羽栗村長：松原清一郎(～8)
1916	5	上本町蘇原銀行の支店ができる
1919	8	下羽栗村長：服部卯三郎(～昭和 7)
1921	10	御神木流しが行われる 竹ヶ鼻軽便鉄道により、西笠松～竹ヶ鼻間に鉄道が開通される
1922	11	笠松町商工会ができる 笠松町処女会が発会式をあげる
1924	13	町長：山脇準之助(～12月) 町長：加藤虎雄(～昭和 9)
1925	14	笠松少年団ができる 県立工業試験場が移転を完了する 柳津村の一部柳側町を合併する
1926	15	郡役所が廃止される 県立第一工業学校の開校式が行われる
1928	昭和 3	笠松町役場の竣工式が行われる
1929	4	松枝村長：高島善郎(～12) 天皇陛下即位を記念し建てられた役場庁舎が完成する 竹ヶ鼻軽便鉄道が西笠松駅から終点大須駅まで延長される
1930	5	蘇原銀行が休業する
1932	7	笠松婦人会ができる
1934	9	下羽栗村長：松原徳太郎(～18) 笠松競馬が始まる
1935	10	笠松町都市計画法適用される 岐阜～名古屋間に名岐鉄道の直通電車が開通する
1936	11	町長：山本清之助(～21) 笠松小学校講堂が完成する
1937	12	松枝村長：安達保直(～10月) 旧国道 22 号線の木曾川橋が架設される(現在の県道岐阜・稲沢線) 日本特殊毛織株式会社の誘致が決定する 笠松土地改良区画整理開始
1938	13	松枝村長：高島善郎(～15) 新町の民家に隕石が落下する
1939	14	笠松警防団ができる 町常会結成
1940	15	松枝村長：安達保直(～21) 笠松町町名・地番改正
1941	16	御神木の川下りが最後となる
1942	17	笠松町忠霊塔竣工式
1943	18	下羽栗村長：河田浄暁(～19) 笠松競馬が太平洋戦争勃発により中止となる
1944	19	下羽栗村長：松山信二(～21) 大洋電機株式会社起工式
1945	20	笠松都市計画河港修築事業開始 笠松町国民義勇隊結成 第 2 次世界大戦で B29 の爆撃を受ける(如月町・春日町付近)
1946	21	町長：高木栄一(～26) 下羽栗村長：森藤治郎(～22) 天皇陛下が御巡幸される

西暦	和暦	事項
1947	昭和 22	松枝村長：速水瑛一郎(～25) 下羽栗村長：川出重治(～28) 終戦により、第 1 回公営競馬が開催される 新学制施行(六・三制)により、笠松中学校を開校する 上羽栗村と下羽栗村で「組合立羽栗中学校」を開校する 松枝村と柳津村で「組合立蘇西中学校」を開校する
1948	23	格子なき牢獄という新しい構想で、「笠松女子職業学園」が設置される 公民館を設置する
1949	24	笠松女子職業学園が「笠松刑務所」と改称される
1950	25	松枝村長：樋口利逸(～7 月) 笠松町が松枝村と合併する
1951	26	町長：伊藤太八(～27)
1952	27	町長：梅田啓一(～34) 教育委員会が発足する 町総代および副総代の制度が誕生する
1953	28	下羽栗村長：松山信二(～30) 広報第 1 号を発行する 下羽栗保育所を設置する
1955	30	市町村合併促進法により、下羽栗村と合併する 第一保育所を設置する 松枝保育所を設置する
1956	31	町史(上巻)を刊行する
1957	32	第一紡績株式会社岐阜工場を誘致する 町史(下巻)を刊行する
1958	33	上水道第一水源地が完成する(月美町) 大阪毛織株式会社笠松工場を誘致する
1959	34	町長：山本清之助(～38) 伊勢湾台風により、岐阜県内が風水害を受ける
1960	35	法人格の商工会が誕生する 中央公民館が完成する
1961	36	岐阜小野田レミコン株式会社を誘致する
1962	37	羽島用水路の完成
1963	38	町長：梅田啓一(～42) 岐阜市羽島郡衛生施設組合<現：岐阜羽島衛生施設組合>が事業を開始する
1964	39	「笠松町老人クラブ連合会」が発足する 東洋染色工業株式会社岐阜工場を誘致する 木曾川橋に歩道橋が架設される
1965	40	町章を一般公募により制定する 光得寺の梵鐘が岐阜県の有形文化財(工芸品)に指定される 西日本馬術大会が笠松競馬場において開催される 岐阜国体が開催され馬術競技、バスケットボール競技の会場となる
1966	41	学校給食センターが完成する 笠松小学校を改築する 上水道第二水源地が完成する(松栄町)
1967	42	笠松中央公民館(八幡会館=取り壊し)を移転改築する 木曾川笠松渡船場跡「石畳」が岐阜県の記念物(史跡)に指定される
1968	43	笠松児童館が完成する 「羽島郡消防事務組合」が発足する 笠松町役場庁舎を改築する 町長：加藤文治(～47)
1969	44	下羽栗小学校を改築する 国道 22 号線の新木曾川橋が架設される 「羽島郡教育委員会」<現：羽島郡二町教育委員会>が発足する 笠松町都市開発公社が岐阜県知事より設立許可を受ける
1970	45	火葬場を改築する 厚生会館が完成する
1971	46	町民運動場が完成する
1972	47	町長：青井逸雄(～55) 下羽栗保育所を移転改築する

西暦	和暦	事項
1972	昭和 47	町民体育館が完成する 学校給食センターを移転改築する
1974	49	組合立羽栗中学校を廃止し「岐南町・笠松町中学校組合立岐南中学校」を開校する 笠松中央公民館が完成する 松枝小学校を改築する 町の木に「松」を選定する
1975	50	緑地公園が完成する 羽島郡消防事務組合本部庁舎が完成する
1976	51	下羽栗小学校を増築する 松枝保育所を移転改築する 上水道第三水源地在が完成する 台風 17 号の集中豪雨により、大被害を受ける
1977	52	第一保育所を移転改築する 町総代を町内会長に名称を変更する
1979	54	松枝公民館・下羽栗会館が完成する 町民憲章が制定される
1980	55	町長：杉山勇(～63) 寄贈された町民憲章碑の除幕式が行われる
1982	56	福祉会館がオープンする
1983	58	「ふるさと笠松」を刊行
1985	60	町民バスの運行開始
1986	61	中学校区が変更され笠松町全域が笠松中学校に通学となる
1987	62	トンボ池が県の名水に認定される
1988	63	笠松町名誉町民に古田好氏が選定される 町制施行 100 年を迎え、タイムカプセル埋設などの記念行事が行われる 町長：広江泰雄(～平成 4) ぎふ中部未来博に大名行列お奴が出演する
1989	平成元	笠松県庁跡記念碑が完成する 環境庁からトンボ天国が「いきものの里」に認定される 町公共下水道工事を開始する 「木曾川トンボ天国自然公園」「笠松港公園四季の里広場」が完成する 円城寺の芭蕉踊が岐阜県の民俗文化財（無形民俗文化財）に指定される
1991	3	笠松競馬場でオグリキャップ里帰りセレモニーが開催される 笠松大名行列お奴保存会発足
1992	4	町長：岩田哲(～11) 第 1 回まちづくりイベント「リバーサイドカーニバル」が開催される
1993	5	青少年海外派遣事業(グアムへ中学生・高校生 22 人)開始 巡回町民バス及び福祉バスの運行開始
1994	6	乳幼児医療費助成(6 歳まで)
1995	7	歴史民俗資料室を開設する 笠松の奴行列が岐阜県の民俗文化財（無形民俗文化財）に指定される 非核平和都市宣言を行う
1996	8	スポーツ交流館が完成する 白川町と災害時における相互応援盟約を締結する 乳幼児・児童医療費助成(12 歳まで)
1997	9	岐阜市との行政協力共同声明を発表 防災行政無線の本放送が開始される 情報公開条例を制定 岐阜市と各種証明書交付事務を相互委託する協議書を取り交わす
1998	10	笠松町コミュニティ消防センターが完成する 乳幼児・児童・生徒医療費助成(15 歳まで) 歴史民俗資料館が開館する 上水道相互連絡管設置相互応援配水の協定を締結する(岐阜市・羽島市)
1999	11	緑会館、総合会館が完成する (財)笠松町地域振興公社を設立する 全国初、戸籍・除籍の謄抄本を相互発行(岐阜市) 町長：広江正明(～令和元年)

西暦	和暦	事項
2000	平成 12	岐工記念館（旧岐阜県工業試験場）が国の登録有形文化財（建造物）に登録される 福祉健康センターが完成する 住民票等各種証明書（戸籍・除籍の謄抄本、納税証明）の広域相互発行（岐阜・西濃・中濃地域の 44 市町村）
2001	13	笠松郵便局と廃棄物の不法投棄の情報提供に関する覚書締結 南部コミュニティー消防センターが完成する
2002	14	羽島郡合併研究協議会を設置する 地域イントラネット基盤整備事業新世代地域ケーブルテレビ施設整備事業が完了
2003	15	岐阜市、羽島市、柳津町、笠松町、北方町により岐阜広域合併協議会を設置
2004	16	「笠松町の合併についての意思を問う住民投票」の実施 岐阜広域合併協議会から脱退
2005	17	「笠松町行財政改革推進プラン」策定 緊急時情報伝達システム（あんしんかさまつメール）を開始する
2006	18	杉山家住宅主屋が国の登録有形文化財（建造物）に登録される 第一保育所が民営化する 岐阜県知事からトンボ天国が「ぎふ・ふるさとの水辺」の認定を受ける 小中学校に「光文庫」が創設される 公共施設に自動体外式除細動器（A E D）の導入始まる
2007	19	下羽栗保育所が民営化する 道徳のまちづくり条例を制定
2008	20	松枝保育所が民営化する 水道料金・下水道使用料のクレジットカードによる納付制度を導入する ふらっと笠松が完成する
2009	21	笠松みなと公園が完成する 笠松町名誉町民に松原登士弘氏が選定される 木曾川笠松渡船場跡「石畳」が岐阜県の記念物（史跡）に追加指定される 町生誕 120 年を迎え、記念行事が行われる マスコットキャラクター「かさまるくん・かさまるちゃん」誕生 町の花「さくら」を制定
2010	22	産業振興助成金・定住促進助成金制度開始する 「松枝みなみ会館」を開設する（岐阜地方事務局羽島出張所跡地） N P O 法人笠松を語り継ぐ会が杉山邸の運営開始する
2011	23	笠松町地域振興公社が財団法人から社会福祉法人になる
2012	24	歴史民俗資料館の累計入館者数が 10 万人達成する（4 月 15 日）
2013	25	かさまるくんナンバープレートの交付始まる（8 月 15 日） 多目的運動場が完成する 内閣総理大臣から「アジア No. 1 航空宇宙産業クラスター形成特区」に指定される
2014	26	笠松中学校屋内運動場が完成する 「かさまつ応援基金」を活用して新型の公共施設巡回町民バスを購入し、運行
2015	27	笠松町役場庁舎の耐震工事が終了 埼玉県比企郡滑川町と災害時相互応援協定を締結する 歴史未来館が完成する（6 月 6 日） 笠松町水防センターが完成する 「かさまつ応援基金」を活用して街灯を LED 化 笠松中学校とグアム（アメリカ合衆国准州）のイナラハン・ミドル・スクールが姉妹校提携（12 月 11 日）
2016	28	笠松町運動公園に大型複合遊具「かさまるくん」が完成する 防災行政無線屋外スピーカーを 33 か所に増設する
2017	29	サイクリングロード中継地点が完成 笠松刑務所と災害協定を締結する 岐阜大学と連携に関する協定を締結する 和田家住宅主屋・土蔵・門及び塀が国の登録有形文化財（建造物）に登録される 岐阜市と山県市、瑞穂市、本巣市、岐南町、笠松町、北方町がそれぞれ連携中核都市圏形成に係る連携協約書を締結する 西日本電信電話株式会社岐阜支店と特設公衆電話の設置等に関する覚書を締結する
2018	30	笠松町土地開発公社が岐阜県知事より解散認可を受ける 学校給食センターを移転改築する

西暦	和暦	事項
2018	平成 30	ピアゴ笠松店と災害協定を締結する 歴史未来館がリニューアルオープンし、累計入館者が3万人を達成する（6月17日） つき山「かさマウンテン」が完成し、笠松町運動公園の再整備が完了する 町制施行130年を迎え、タイムカプセルを開封する（埋設：昭和63年） 公共施設巡回町民バスの累計利用者が200万人を達成する（12月25日）
2019	31 令和元	羽島梱包株式会社と災害時の物流に係る協力に関する協定を締結する 笠松町サイクリングロードが全線開通する 福祉健康センター内に子育て世代包括支援センターを開設する 笠松町老人クラブ連合会が「笠松いきいきクラブ連合会」に名称変更する 町長：古田聖人（～現在） 町政策アドバイザーに松波英寿氏が就任する 岐阜聖徳学園大学と包括的連携に関する協定を締結する
2020	2	新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント等が中止になる 中広とタウンプロモーションの推進に関する協定を締結する 丸杉とホームタウンパートナー協定を締結する 町政策アドバイザーに大野鶴土氏が就任する
2021	3	社会医療法人蘇西厚生会、株式会社光製作所、株式会社岩倉工務店と災害協定を締結する ヴェオリア・ジェネッツ株式会社中部支店と水道施設の災害に伴う応援協定を締結する 空家等対策事業の実施に関する協定を締結する 笠松町の新名物、銘菓「笠松隕石最中」が誕生 乗合交通サービス「チョイソコカラタン」が運行開始する 笠松町名誉町民に杉山幹夫氏と松波英一氏が選定される
2022	4	笠松町トリネットジャパンリサイクル株式会社との連携と協力に関する協定を締結する 桜町に新こども館「かさくら」が開館する YouTuber「ピットワン岩田」さんと「ゆみやみちゃんねる」さんを笠松特命アンバサダーに任命する 株式会社かます東京と連携協定を締結する

令和3年度 笠松力検定 Beginner 問題 (解答は P80)

次の問題を読み、正しいと思われるものを一つ選び、解答用紙の数字に○を書いてください。

- 笠松町役場の海抜は何メートルですか。
① 0.81メートル ② 5.81メートル ③ 10.81メートル ④ 15.81メートル
- 笠松町に隣接する岐阜県内の市町はいくつありますか。
① 2つ ② 3つ ③ 4つ ④ 5つ
- 笠松町の面積のうち、木曾川の占める割合はおおよそどれくらいですか。
① 4分の3 ② 3分の2 ③ 3分の1 ④ 2分の1
- 昔、木曾川は、さまざまな呼び名がありました。使われなかった呼び名は何ですか。
① 鵜沼川 ② 尾張川 ③ 伊奈波川 ④ 岐蘇川
- 木曾川の河川敷にある「トンボ池」は、どのように作られましたか。
① 生き物の観察目的で人工的に作られた ② 火山活動によってできた
③ 雪解け水が集まってできた ④ 木曾川の本流の流れが変わり、その跡あとにできた
- 昭和10年(1935)、田代で木曾川橋の工事が行われた時に、川底15メートルの深さの地層から「マガキ」の化石が出土しました。このことから分かった笠松の昔の姿は、なんですか。
① 山 ② 湖 ③ 海 ④ 平地
- 寛文2年(1662)、当時「笠町」と呼ばれていたこの地が「笠松村」となりました。その後、「笠松村」が「笠松町」となったのはいつですか。
① 明治12年 ② 明治22年 ③ 大正12年 ④ 昭和22年
- 岐阜県史跡に指定されている木曾川笠松渡船場跡「石畳」は、平成21年(2009)に埋もれていた部分が掘り起こされました。その結果、「石畳」の総延長は何メートルになりましたか。
① 74メートル ② 94メートル ③ 114メートル ④ 134メートル

令和3年度 笠松力検定 Beginner 問題 (解答は P80)

9. 明治18年(1885)、木曾川にある笠松湊に寄港する船は1日平均38隻余りにもなり、笠松は物資流通の中継地として繁栄していました。蒸気船が毎日運航されていたのは笠松湊とどこの間ですか。

- ① 八百津 ② 桑名 ③ 兼山 ④ 犬山

10. 蓮國寺れんこくじにある「むくげ塚」は、誰を慕って建てられたものですか。

- ① 角田錦江すみたまんこう ② 伊藤冠峰いとうかんぼう ③ 山田訥斎やまだとつさい ④ 松尾芭蕉まつおばしょう

11. 平成30年(2018)にリニューアルオープンされた歴史未来館には、不動明王像と毘沙門天像が常設展示されていますが、この2体の作者は誰ですか。

- ① 円空 ② 運慶うんけい ③ 快慶かいけい ④ 空海



12. かつて味噌や醤油をつくる商人の邸宅であった「町屋造り」の建物が笠松町下本町にあります。国の「登録有形文化財」にもなっているこの建物は何と呼ばれていますか。

- ① 杉本邸 ② 杉田邸 ③ 杉江邸 ④ 杉山邸



13. 八幡町の「住宅主屋・土蔵・門・塀」は、旧街道に合った屋敷全体の景観と、主屋の優れた造りが評価され、平成29年(2017)に、国の登録有形文化財に登録されました。この建物の名は何ですか。

- ① 円城寺川並奉行所 ② 和田家 ③ 高嶋家 ④ 杉山邸

14. 繊維業を中心とする笠松町の地場産業の発展に大きく貢献し、笠松町初の国の「登録有形文化財」として登録された写真の建物は何ですか。

- ① 岐工記念館
② 八幡神社本殿
③ 岐阜県第一工業学校
④ 和田家



15. 昭和13年(1938)、笠松町新町に隕石いんせきが落下しました。国内に落下し、発見された隕石53例のうちの一つで、その貴重さから笠松町指定文化財にもなっているこの隕石の名前は何ですか。

- ① 岐阜隕石 ② 笠松隕石 ③ 新町隕石 ④ 木曾川隕石

令和3年度 笠松力検定 Beginner 問題 (解答は P80)

16. 江戸時代に置かれた「美濃郡代笠松陣屋」の建物は、明治になると「笠松県庁」の建物として使われました。その後、明治4年から明治6年まで、どのような建物として使われていましたか。

- ① 岐阜県庁 ② 笠松刑務所 ③ 国会議事堂 ④ 笠松小学校

17. 江戸時代、幕府によるキリスト教禁止令を受け、キリスト教の信仰は隠れて行われていました、当時、密かにキリスト教を信仰していた「隠れキリシタン」や罪人を処刑した場所は何と呼ばれていますか。

- ① 木曾塚 ② 大白塚 ③ 処刑塚 ④ 切支丹塚

18. 織田信長と斎藤道山が尾張・富田で初会見し、その後ここまで来たといわれている「別れの地」が松枝地域にあります。この「別れの地」は現在のどこですか。

- ① 秋葉神社 ② 産霊神社 ③ 新明神社 ④ 白鬚神社

19. 笠松町には、「鮎鮎街道」と呼ばれる街道が通っています。長良川の鮎で鮎をつくり、その鮎鮎をどこまで運ぶための街道ですか。

- ① 薩摩さつま（現在の鹿児島県） ② 京（現在の京都府）
③ 江戸（現在の東京都） ④ 会津（現在の福島県）

20. 江戸時代、木曾川を行き来する舟や荷物を取り締まるために笠松の円城寺とその対岸の北方きたがた（現在の愛知県一宮市）に設置されたものはなんですか。

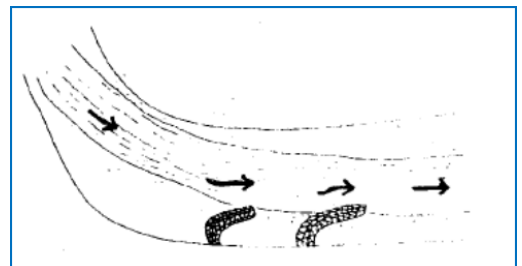
- ① 往来奉行 ② 川並奉行 ③ 貿易奉行 ④ 船舶奉行

21. 無動寺の光得寺には、岐阜県重要文化財の指定を受けたあるものが大切に保存されています。それは何ですか。

- ① 巻物まきもの ② 御神刀ごしんとう ③ 仏像ぶつぞう ④ 梵鐘ぼんしょう

22. かつて笠松では、木曾川の洪水により堤防ていぼうが切れて大きな水害がたびたびありました。このため、川の流れの勢いを弱めるために、石を組み、川に突き出した堤が築られました。今も米野・江川・長池などの堤外に残っている史跡は何ですか。

- ① 猿尾 ② 中州
③ 土手 ④ 水門



令和3年度 笠松力検定 Beginner 問題 (解答は P80)

23. 戦国時代、今の田代に所領地を持ち、^{れんだい}蓮台城を構えた森氏がいました。^{もりよしなり}森可成の子で、織田信長に仕え本能寺の変で戦死した武将は誰ですか。

- ① 森可能 ② 森可良 ③ 森長可 ④ 森蘭丸

24. 無動寺の「土岐塚」は、^{ときづか}土岐頼香が^{ときよりか}葬^{ほうむ}られていると伝えられています。天文13年(1544)、尾張の織田信秀(信長の父)が美濃へ攻め込んだ時、無動寺の光得寺にいた土岐頼香は、ある武将の家来に殺害されました。その武将は誰ですか。

- ① 福島正則 ② 斎藤道三 ③ 石田三成 ④ 池田輝政

25. ^{けいちょう}慶長5年(1600)、^{いけだてるまさ}池田輝政を主力とする東軍(徳川方)と西軍(豊臣方)が、現在の笠松町内で戦いました。関ヶ原の戦いに先立つ戦^{せんとう}闘(前^{ぜんしやうせん}哨戦)となったこの戦いは何と呼ばれていますか。

- ① 中野の戦い ② 米野の戦い ③ 江川の戦い ④ 笠松の戦い

26. ^{ほうれき}宝暦治水工事により、出水時には長良川の水位が上がり、支流の境川に逆流するようになりました。水害に悩まされていた松枝輪中の農民たちが許可を得ずに、畑に土を盛って造った堤防は何と呼ばれていますか。

- ① ^{はたつなぎてい}畑繫堤 ② 奈良津堤 ③ 千本松原 ④ ^{おかこいつつみ}御囲堤

27. 洪水がおきても生活できるように、道路よりも高く石を積み上げてその上に作った家は何と呼ばれていますか。

- ① 川屋 ② 石屋
③ 水屋 ④ 高屋



28. 昔、木曾川の堤防に道標がありましたが、今は松枝小学校に移設されました。その道標には、「竹鼻高須道」ともう一つは何道と刻まれていますか。

- ① 鎌倉街道 ② 東海道
③ 中山道 ④ 伊勢道



令和3年度 笠松力検定 Beginner 問題 (解答は P80)

29. 文禄2年(1593)、当時の笠松を切り拓いた草分けの人たちがいました。その人たちはどのように呼ばれていますか。

- ① 6人衆 ② 7人衆 ③ 8人衆 ④ 9人衆

30. 社団法人岐阜県観光連盟の「^{ひだみの}飛騨美濃さくら33選」にも選ばれている奈良津堤の桜並木で、一番多いサクラの品種は何ですか。

- ① ソメイヨシノ ② トモエザクラ ③ ヤマザクラ ④ ヤエザクラ

31. 毎年4月に行われる笠松春まつり^{ひろう}で披露される、岐阜県重要無形民俗文化財は何ですか
(※令和2・3・4年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止されました)

- ① さくら行列 ② 毛槍行列
③ 陣屋行列 ④ 奴行列



32. 毎年8月22日に円城寺の秋葉神社^{ひろう}で披露される、岐阜県重要無形民俗文化財になっている^{あまご}雨乞い踊りは何ですか。
(※令和2・3・4年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止されました)

- ① おばば踊り
② お湯立て踊り
③ 芭蕉踊り
④ おへそ踊り



33. 笠松町公共施設巡回町民バスの車体は主に何色ですか。

- ① 赤色 ② 青色 ③ 黄色 ④ 白色

34. 笠松町には名鉄の名古屋本線と竹鼻線が通っていますが、町内には駅はいくつの駅がありますか。

- ① 1つ ② 2つ ③ 3つ ④ 4つ

35. 平成20年(2008)より名鉄笠松駅構内で笠松町の情報提供、憩いと交流の場として利用されている施設名は何ですか。

- ① ぶらっと笠松 ② ぶらっと笠松
③ ぶらっと笠松 ④ ぶらりと笠松



令和3年度 笠松力検定 Beginner 問題 (解答は P80)

36. 「競馬場があるまち」ならでの、笠松中学校生徒が考えたお菓子は何か。このお菓子は、ふらっと笠松や町内の和菓子店で購入することができます。

- ① サクラクッキー ② かさまるチョコ ③ 蹄鉄クッキー ④ 蹄鉄チョコ

37. 寿司米として重宝されている米で、笠松町で多く栽培している米の銘柄は何ですか。

- ① ひとめぼれ ② ハツシモ ③ ななつぼし ④ ササニシキ

38. 毎年6月30日、八幡神社では無病息災を願って「茅の輪くぐり」が行われています。この日限定で、笠松町菓子工業組合が実演販売する和菓子は何か。

(※令和2・3年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止されました)

- ① みそぎ餅 ② みそぎ団子
③ みそつけ餅 ④ みそつけ団子



39. 笠松町は織物の町として栄えていました。江戸時代から農家の副業として盛んに織られてきた織物は何と呼ばれていましたか。

- ① 美濃織 (みのおり) ② 美濃紬 (みのつむぎ)
③ 美濃木綿 (みのもめん) ④ 美濃縞 (みのじま)



40. 明治24年(1891)に、旧本巢郡根尾村の根尾谷を震源として発生し、笠松町でも家屋の倒壊や火災などで、多数の死傷者を出したこの地震は、何と呼ばれていますか。

- ① 根尾大震災 ② 岐阜大震災 ③ 濃尾大震災 ④ 東海大震災

41. 笠松町内にある小学校、中学校、高等学校の数はあわせて何校ですか。

- ① 5校 ② 6校 ③ 7校 ④ 8校

42. 笠松町の議員定数は、条例で定められています。現在の議員定数は何人ですか。

- ① 5人 ② 7人 ③ 10人 ④ 13人

令和3年度 笠松力検定 Beginner 問題 (解答は P80)

43. 誰もが気軽に立ち寄り、地域の情報などが得られる交流の場所が、笠松町に40駅あります。これらの場所は何と呼ばれていますか。

- ① みちの駅 ② まちの駅
③ 癒しの駅 ④ 情報の駅



44. 笠松町の下水道マンホール蓋^{ふた}にはある生き物がデザインされています。それはなんですか。

- ① ライチョウ ② アユ ③ ウマ ④ トンボ

45. 平成31年(2019)に全線開通した笠松町サイクリングロードは、笠松みなと公園とどこをつないでいますか。

- ① 境川緑道公園 ② 各務原公園
③ 河川環境楽園 ④ 羽島運動公園



46. 平成25年8月15日に交付が開始された「かさまるくんナンバープレート」にデザインされているのは、「かさまるくん」と「桜」とあと1つは何ですか。

- ① 馬 ② かさまるちゃん ③ トンボ ④ 川

47. 笠松競馬場でデビューし、「芦毛^{あしげ}の怪物」と親しまれた名馬の名前は何ですか。

- ① トウホクビジン
② ラブミーチャン
③ ライデンリーダー
④ オグリキャップ







48. 笠松競馬場の本馬場は右回りです。1周何メートルですか。

- ① 500メートル ② 1,000メートル ③ 1,100メートル ④ 2,200メートル

49. 笠松町のマスコットキャラクター「かさまるくん」と「かさまるちゃん」はどんな関係ですか。

- ① 親子 ② 双子の兄妹 ③ 恋人 ④ 先輩・後輩

50. 笠松町のマークである町章はどれですか。

- ①  ②  ③  ④ 

令和3年度 笠松力検定

Beginner 問題解答

問題番号	解答番号	問題番号	解答番号	問題番号	解答番号	問題番号	解答番号
1	③	17	②	33	①	49	②
2	③	18	④	34	②	50	③
3	③	19	③	35	③		
4	③	20	②	36	③		
5	④	21	④	37	②		
6	③	22	①	38	①		
7	②	23	④	39	④		
8	③	24	②	40	③		
9	②	25	②	41	①		
10	④	26	①	42	③		
11	①	27	③	43	②		
12	④	28	④	44	④		
13	②	29	③	45	③		
14	①	30	①	46	①		
15	②	31	④	47	④		
16	①	32	③	48	③		

あ

アドバイザー	52
鮎鮎街道	33
あんどん祭り	30

い

いいね・かさまつ.....	51
石畳.....	26, 34
伊勢湾台風.....	44
いちょうの木（盛泉寺）	25, 26
伊藤冠峰	22

う

美しいまちづくり条例.....	49
-----------------	----

え

SNS.....	51
円空仏	18

お

オグリキャップ.....	62
お成り道	16
おばば	27
おふじの坂.....	31

か

笠松隕石	25, 26
笠松隕石最中	39
笠松駅	35
かさまつ応援寄附金	50
笠松刑務所.....	37
笠松小学校.....	55
笠松陣屋	10, 14, 26
笠松中学校.....	57
かさマルシェ	29
学校給食センター.....	58
鎌倉街道	36
川並奉行	15

川まつり	28
川原からござった地藏様.....	21

き

議会	45
岐工記念館	26, 40
木曾川右岸地帯水防事務組合	41
北門間の地藏様	17, 26
機能別団員制度.....	42
岐阜県各務原浄化センター	48
岐阜工業高等学校.....	54, 58
岐阜スーパス	52
岐阜大学.....	60
9.12 豪雨災害	44
キリシタン灯籠	21

く

クロガネモチ（神明神社）	25, 26
--------------------	--------

け

競馬場.....	61, 62
下水道.....	48

こ

公共施設巡回町民バス	36
ご神刀.....	17, 26
子どもの権利に関する条例	49
米野の戦い	13, 26
魂生大明神	31

さ

サイクリングロード	6
酒井七左衛門.....	16
猿尾	5

し

四季の里	23
資源とごみ	47
志古羅ん	39

獅子門.....	24
時鐘.....	18, 26
地藏盆.....	30
下羽栗小学校.....	56
新笠松音頭.....	32

す

水源地.....	4
水防センター.....	41
杉山邸.....	26, 40
角田錦江.....	22

た

大白塚.....	21
第6次総合計画.....	45
高嶋久右衛門家文書.....	26, 33
多目的運動場.....	6

ち

茅の輪くぐり.....	29
町章.....	63
町の木.....	64
町の花.....	64
町民憲章.....	63

て

蹄鉄クッキー.....	39
-------------	----

と

道徳のまちづくり条例.....	49
土岐塚.....	12
トンボ天国.....	7, 8

な

奈良津堤の桜.....	27
ナンバープレート.....	51

に

二町教育委員会.....	55
--------------	----

の

濃尾大震災.....	43
------------	----

は

羽島郡広域連合.....	42
羽島用水.....	6
芭蕉踊.....	26, 31
畑繫堤.....	16
旗本津田・坪内・中川.....	15
ハツシモ.....	37
春まつり.....	27

ひ

非核平和都市宣言.....	63
東流廃寺.....	11, 26
聖牛.....	7

ふ

フクヒロペア.....	52
藤掛水没遺跡.....	9
ふらっと笠松.....	50

へ

へそ塚.....	31
----------	----

ほ

防災行政無線.....	41
梵鐘.....	17, 26

ま

マガキ.....	3
マスコットキャラクター.....	64
まちの駅.....	50
松枝小学校.....	56
松枝輪中.....	5, 16
マンホール.....	8

み

水屋.....	5
---------	---

みそぎ餅	30
みなと公園.....	8
美濃縞	38
む	
むくげ塚	23
無動寺の戦い	12
も	
森越後守居城跡.....	12
や	
奴行列	26, 28
山田訥齋	23

ら	
LINE	42, 51
り	
リバーサイドカーニバル.....	29
れ	
歴史未来館	60
わ	
別れの地	13
和田家.....	26, 39

引用・参考文献

笠松町史 上巻	笠松町史編纂委員会	昭和 31 年
笠松町史 下巻	笠松町史編纂委員会	昭和 32 年
ふるさと笠松	ふるさと笠松編集委員会	昭和 58 年

令和 4 年度 さまざまな「宝」が輝くまち 笠松
(笠松力検定テキスト)

平成 22 年 1 月 初版発行
令和 4 年 8 月 第 12 版発行

編著・発行 笠松力検定委員会
(笠松町役場 企画環境経済部企画課内)
〒501-6181 岐阜県羽島郡笠松町司町 1
TEL 058-388-1113 FAX 058-387-5816

表紙写真 朝日に輝く木曾川と木曾川橋
撮影：松原 誠



笠松力検定テキスト
岐阜県笠松町